

# CSR報告書(CSR報告書 2017年版)



## 昭和電線グループCSR報告書 2017

今回の報告は、2016年度の昭和電線グループのCSR活動報告と今後の取り組みを、ISO26000に対応した構成でご報告いたします。

[印刷用ページPDF ダウンロードはこちら](#)

### はじめに



[CSR報告の方針・編集概要・報告対象組織](#)

### 社長メッセージ



[社長メッセージ](#)

### 特集



[成長分野への取り組み強化](#)

### 2016年度トピックス



[2016年度トピックス](#)

### 昭和電線グループの概要



[昭和電線グループの概要](#)  
[主な製品・サービス](#)

### 組織統治



[組織統治](#)  
経営方針  
コーポレート・ガバナンス  
CSRに対する取り組み  
内部統制システム整備・運用体制  
コンプライアンス強化  
情報セキュリティへの取り組み  
BCM（事業継続マネジメント）  
輸出管理

## 人権・労働慣行



- 従業員に対する取り組み  
(人権・雇用、教育)
- 安全・衛生
- ダイバーシティ・インタビュー

## 環境



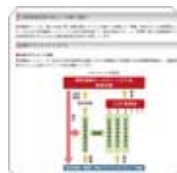
- 環境マネジメント体制
- 環境自主行動計画
- 2016年度 マテリアルフロー
- 環境保護、生物多様性の保全
- 環境貢献製品
- 環境会計

## 公正な事業慣行



- 公正な事業慣行  
調達先・取引先に対する取り組み  
内部通報制度

## 消費者課題



- お客様満足度の向上への取り組み

## コミュニティへの参画 およびコミュニティの発展



- 地域コミュニケーション

## 第三者意見



- 第三者意見

## CSR報告書 用語集



- 昭和電線グループCSR報告書に使われる用語

## はじめに(CSR報告書 2017年版)

### CSR報告の方針

昭和電線グループは、「信頼」をキーワードとした経営理念に基づき企業活動を進めています。

CSR報告書の発行は、前年同様JIS Z 26000に対応し、社会的責任として企業が取り組むべき七つの中核主題を切り口に編集しました。

本年も主要メディアをホームページとし、すべてのページデータをひとつにした印刷用のPDFデータも用意しました。

### 編集概要

#### ■ 報告対象期間

2016年4月から2017年3月までの活動を中心に記載していますが、一部には過去および直近の活動が含まれます。

#### ■ 参考にしたガイドライン

- (一財)日本規格協会「JIS Z 26000 : 2012 社会的責任に関する手引」
- 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」「環境会計ガイドライン2005年版」
- GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」

#### ■ 前回発行と次回発行

前回発行：2016年9月 次回発行：2018年9月(予定)

#### ■ その他

会社案内、有価証券報告書等、昭和電線グループ各社の企業情報は、[ホームページ](#)でご覧いただけます。

## 報告対象組織

昭和電線グループ各社の生産拠点を報告対象としています。

グループの再編等により過去のデータとの継続性に变化があった場合はその旨本文に記載しています。

関係会社		パフォーマンス			環境会計
		社会	経済	環境	
国内	昭和電線ホールディングス(株)	○	○	○	○
	昭和電線ケーブルシステム(株)	○	○	○	○
	昭和電線デバイステクノロジー(株)	○	○	○	○
	昭和電線ビジネスソリューション(株)	○	○	○	○
	富士電線(株)	○	○	○	○
	(株)ダイジ	○	○	○	○
	(株)SDS	○	○	○	○
	(株)アクシオ	○	○	○	○
	(株)ユニマック	△	○	△	○
	青森昭和電線(株)	☆	○	○	○
	(株)エステック	☆	○	○	○
	昭光機器工業(株)	☆	○	○	○
	(株)昭和サイエンス	☆	○	○	○
	昭和リサイクル(株)	☆	○	○	○
	多摩川電線(株)	☆	○	○	○
(株)ロジス・ワークス	☆	○	○	○	
海外	SWCC SHOWA(VIETNAM)CO.,LTD.(SVC)	□	○	□	★
	嘉興昭和機電有限公司(JSIP)	□	○	□	★
	昭和電線電纜(上海)有限公司(SHA)	□	○	□	★
	天津昭和漆包線有限公司(TSW)	□	○	□	★
	東莞昭和機電有限公司(DSIP)	□	○	□	★
	福清昭和精密電子有限公司(SSD)	□	○	□	★
	富通昭和線纜(杭州)有限公司(FSH)	□	○	□	★
	香港昭和有限公司(HKG)	□	○	□	★

○：報告対象となっている会社。

☆：各社毎に独自で実施しており、本報告書では詳細には触れておりません。

△：(株)ユニマックは、昭和電線敷地内で生産活動する部分とし、安全・衛生と環境を含めます。

□：各国の国情に合わせた活動を実施しており、本報告書ではその一部を紹介しています。

★：環境に係わるデータをモニタリングしていますが本報告書の環境会計では対象外としています。

備考 ● 昭和電線デバイステクノロジー(株)と昭和電線ビジネスソリューション(株)は、2017年4月1日付で昭和電線ケーブルシステム(株)に吸収合併されました。

## 社長メッセージ(CSR報告書 2017年版)

### 社会インフラの整備に引き続き貢献してまいります

#### ■ 中期経営計画 初年度を終えて

昭和電線ホールディングス株式会社は、事業環境の変化に対応するため昨2016年度より新たに3年間の中期経営計画をスタートさせ、「構造改革」と「成長分野への取り組み強化」を中期経営計画の両輪として効率化の推進とともに、成長分野として取り上げた「自動車、鉄道、道路、防災・減災、医療」の5つの分野に注力して事業展開を行った結果、本中期経営計画で掲げた利益目標を2年前倒しで達成することができました。

#### ■ 事業継続マネジメントへの取り組みを本格化

我が国は世界有数の地震国であるほか、台風の来襲など多くの事業継続リスクを抱えるとともに被害は年々甚大化しています。このような災害を含めた不測の事態により当社の事業が停止することでステークホルダーに対して及ぼす影響を最小限にしていくことは企業の社会的使命と考えています。

当社では、このような事態に対応する事業継続マネジメント（Business Continuity Management：BCM）への取り組みをCSR委員会の傘下に推進部会を設けて本格的に開始し、事業継続戦略の決定、関連する計画の策定、教育訓練、そして継続的改善というプロセスに基づいて活動を進めています。

#### ■ 中長期的な成長に向けて

当社グループの経営体制につきましては、経営資源の統合による顧客価値最大化を主な目的として、本年4月に100%子会社3社（昭和電線ケーブルシステム、昭和電線デバイステクノロジー、昭和電線ビジネスソリューション）を統合し中核事業会社として新たなスタートをいたしました。

今年度も、中期経営計画の必達を目標に、成長分野への取り組みを一段と加速していくとともに中長期的な成長に向けて2018年度以降の長期ビジョンと新たな中期経営計画の策定に着手しております。

当社は1936年の設立以来80年以上にわたり社会インフラの整備にかかわる仕事に従事してまいりました。引き続きステークホルダーのみなさまとの対話を深めながら継続的な成長に向けて取り組む所存であります。なお一層の当社グループへのご支援を賜りますようお願いいたします。



昭和電線ホールディングス株式会社

取締役社長

中島 文明

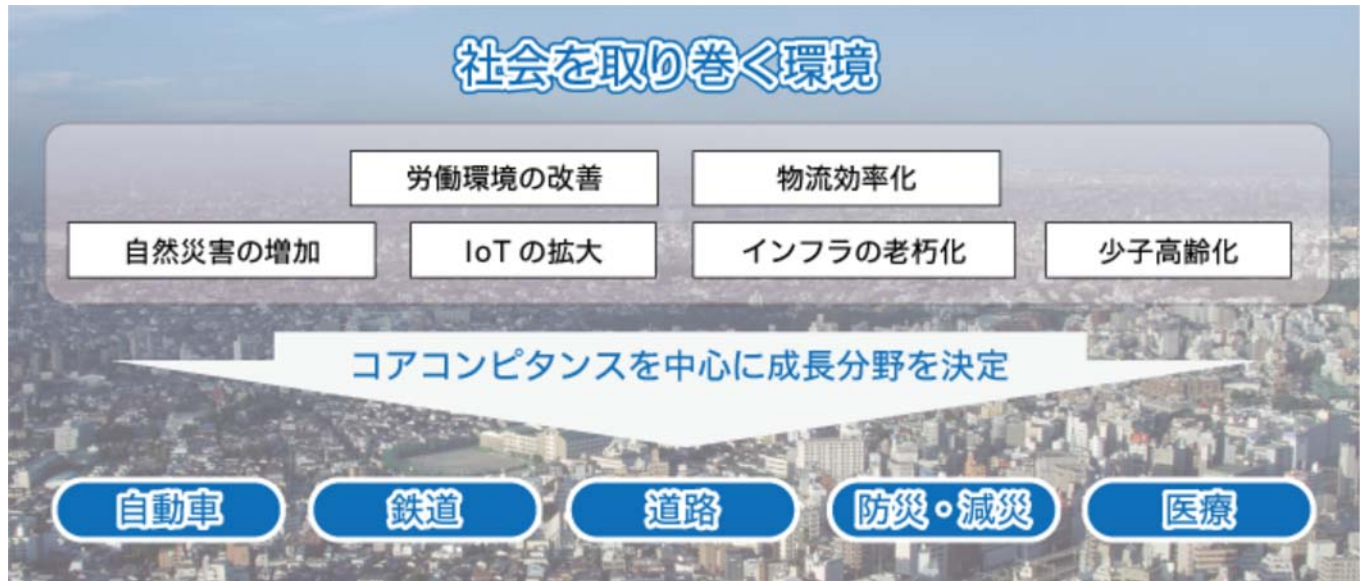
2017年9月



## 特集(CSR報告書 2017年版)

### 成長分野への取り組み強化

昭和電線グループは、1936年に銅電線を製造・販売する会社として創業いたしました。銅電線や絶縁電線の源流製品から積み上げた銅やアルミなどに関する基礎技術で、インフラ向けを中心に、これまで数多くの製品を開発、製造、販売してまいりました。中期経営計画の施策である「成長分野への取り組み強化」では、社会を取り巻く環境に対し、インフラを担う一企業として、昭和電線グループの保有するコア技術を中心に成長分野で注力する5分野を決定し、新たな付加価値を創造することで、事業分野の拡大を目指す活動を推進しています。

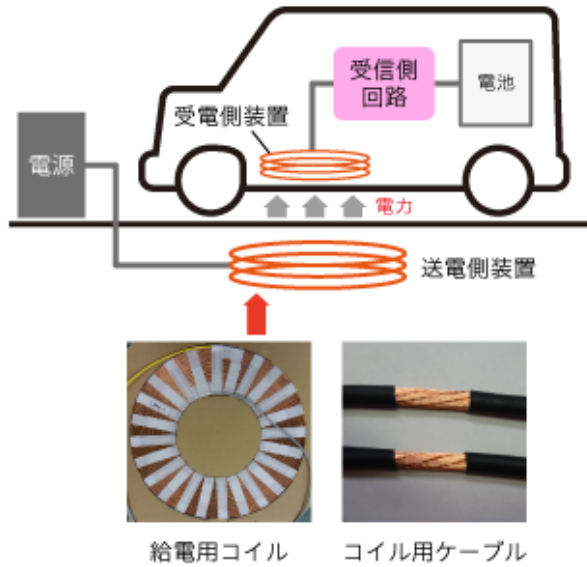


利便性向上に貢献するコイル技術

## 充電の簡便化

### ワイヤレス給電用リッツ線、コイルの実現

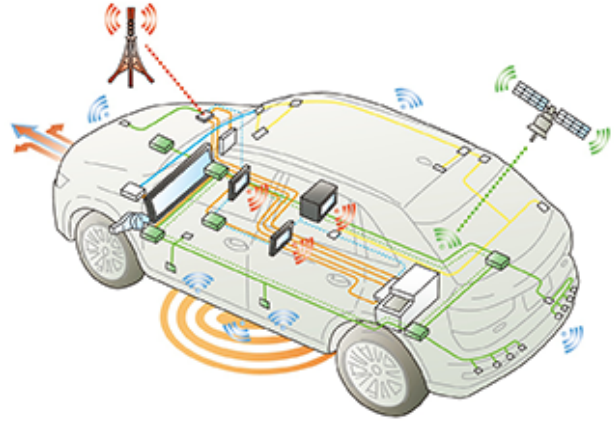
- 高周波で低抵抗維持の導体、コイル化技術
- 様々な出力に対応可能
- 高電圧化に対応



## 巻線高密度化

### 高品位無酸素銅の車載展開

- 無酸素銅の高品位化（低酸素濃度化）により、車載用巻線として用途拡大



鉄道システムの機器軽量・縮小化に貢献

軽量・縮小化

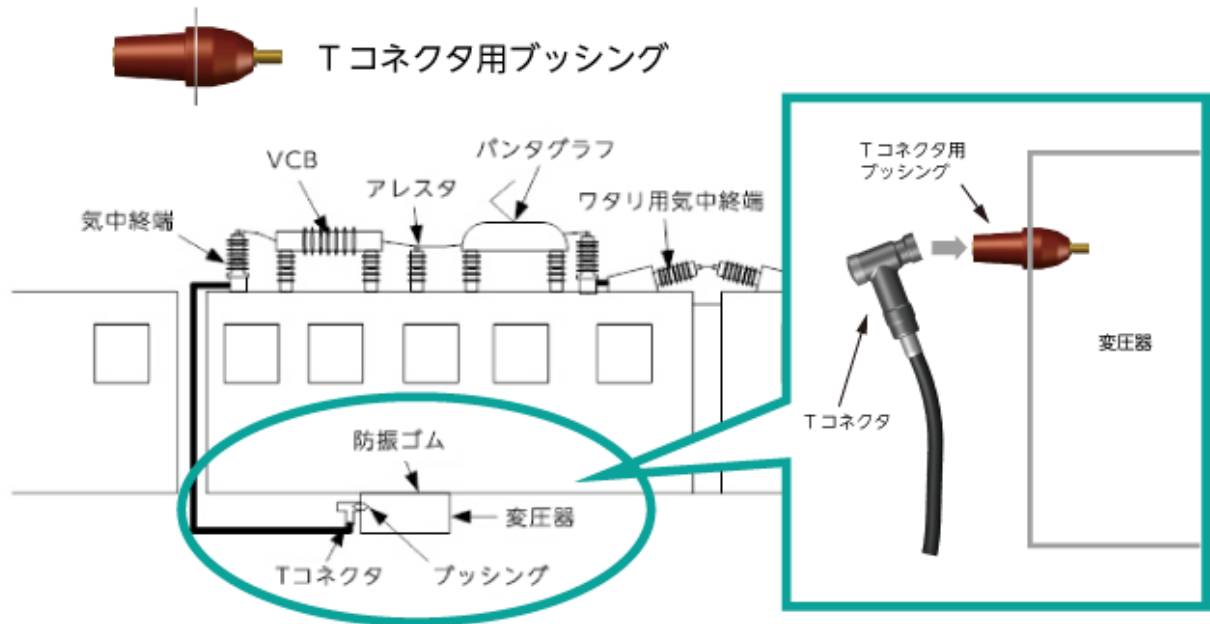
車両向け 電気システムの参入

- 軽量、小型、耐熱性向上
- 海外向け変圧器用ブッシング標準採用
- 車両メーカーとの共同研究

快適性向上

車両用防振・制音製品の参入

- 新幹線車両用床下防振に標準的に適用
- 空調・パンタ等に防振・制音部品として搭載開始



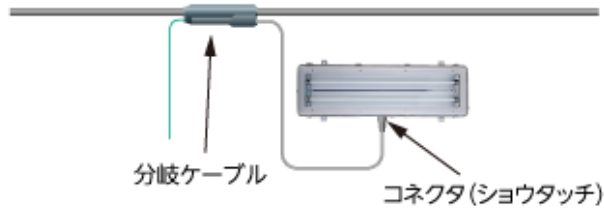


トンネル内の社会基盤を支える技術

## 省力化・工期短縮

### 分岐照明ケーブル

- トンネルにおける適切な照明環境を確保したLED照明用分岐ケーブル  
(照明コストや使用電力の節減に貢献)
- コネクタ (ショウタッチ) 付ケーブルによる工期短縮



## 安心・安全

### 漏洩同軸 (LCX) ケーブル

- 従来品の周波数に加え、アナログで使用していたVHF-low帯域(90~108MHz)でも使用可能  
(FM補完放送やマルチメディア放送に対応)
- FMラジオ再放送、消防無線、警察無線、道路管理用無線に対応
- 消防法に適合した耐熱性能



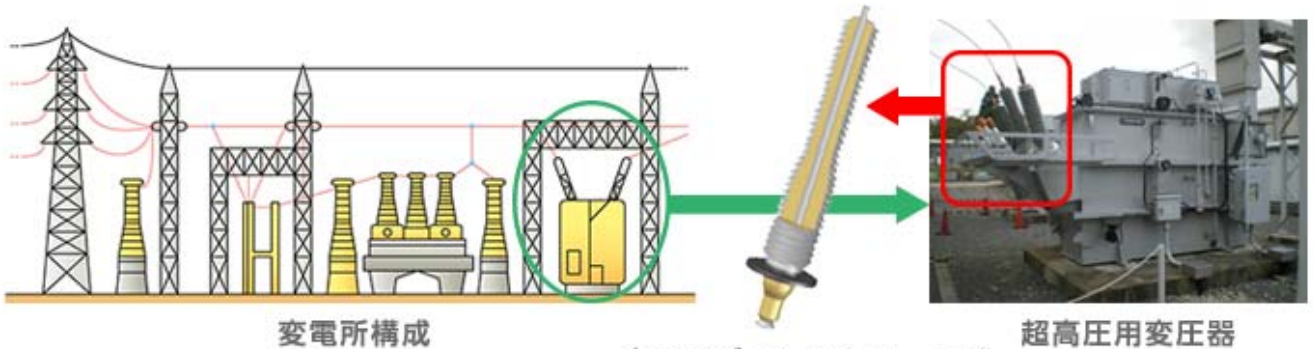
電力機器部品（SICONEX）技術で安全性向上

防災化・耐震性

変圧器ダイレクトモールド標準適用

省スペース・省力化

電力変電所用端末として標準化



変電所構成

- JEC規格により標準化、全電力会社で標準採用
- 油不使用により防災性、耐震性が向上
- 小型化により、軽量化・省スペースを実現
- 部品低減による工事の省力化・工期短縮が可能
- 老朽化変電所リプレイスに有効

変圧器ダイレクトモールド

- ・ 完全ソリッド構造
- ・ コンパクト・軽量化

超高压用変圧器

特殊電線・ハーネス技術を医療分野へ 細径化、耐久性向上

## 取扱性向上

### X線装置用ケーブルの品種・用途拡大

- 米国大手医療機器メーカーとの協業深耕
- 直流75kV～300kV高圧ケーブルまで品揃え拡大で医療用から産業用まで対応
- 細径化でハンドリング性の良さが好評

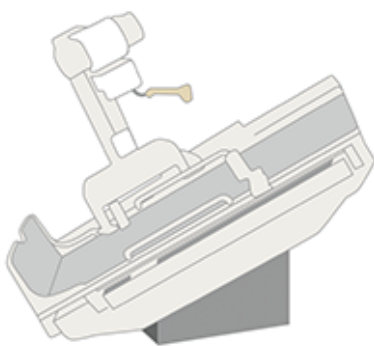
## 耐久性・屈曲性向上

### 医療・介護ロボットへの参入

- 介護ロボットに求められる高屈曲性ワイヤハーネスの適用
- 手術用として光・メタルの複合ケーブルが採用

### ディスプレイ向けへの参入

- 高強度と高導電性を有する銅銀合金のカテーテルへの適用
- 耐屈曲性を有する光ファイバケーブルの内視鏡への適用



# 2016年度トピックス(CSR報告書 2017年版)

## 2016年度達成結果/2017年度目標

中核主題	2016年度達成結果	2017年度目標
<b>組織統治</b> ○ CSRに対する取り組み	○ 下請法、建設業法遵守のための定期講習会の実施 およびコンプライアンス講習を営業部門・管理部門向けにそれぞれ継続実施 ○ 「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」を掲載	● 下請法、建設業法遵守のための定期講習会 および営業担当者向けコンプライアンス講習の継続実施
<b>人権・労働慣行①</b> ○ 従業員に対する取り組み	○ ダイバーシティに対応した勤務制度の策定、障がい者採用説明会への積極的な参加を実施 ○ 次世代育成支援行動計画に基づき、「積立休暇の利用要件拡充」を実施	● ダイバーシティに対応した制度作り・次世代育成支援制度の更なる拡充および「働き方改革」の推進
<b>人権・労働慣行②</b> ○ 安全・衛生に対する取り組み	○ 災害の撲滅に向け、管理監督者による安全配慮(5S励行、安全継承の徹底、1-2-3運動、安全教育の推進)、安全の先取り(リスクアセスメント実践、危険予知と指差呼称の励行、ヒヤリハット提案の推進、異常措置対応の徹底、安全体感教育の推進)を実施 ○ 心とからだの健康づくり(メンタルヘルスケアによる心とからだの健康維持・増進、職場ラジオ体操励行、職場のコミュニケーション向上)	● 管理監督者による安全配慮、安全の先取りによる災害の撲滅 ● 心とからだの健康づくり
<b>環境</b> ○ 環境に対する取り組み	○ グループ環境自主行動計画(第6次ボランタリープラン)に基づく2016年度目標(5件)のうち4件達成 (1)地球温暖化防止：省エネルギー(達成) (2)資源有効活用：廃棄物排出削減(未達成)、ゼロエミッション推進(達成) (3)化学物質の管理強化：VOC排出量削減(達成) (4)環境貢献製品の拡大(達成) (5)生物多様性の保全(達成)	● グループ環境自主行動計画(第6次ボランタリープラン)に基づく、2017年度目標の達成
<b>公正な事業慣行</b> ○ 調達先・取引先に対する取り組み	○ 昭和電線グループ調達方針と昭和電線グループの行動規範に則った材料・製品の調達の実施	● 昭和電線グループ調達方針と昭和電線グループの行動規範に則った材料・製品の調達
<b>消費者課題①</b> ○ お客様満足度に対する取り組み	○ お客様のクレーム情報のタイムリーな伝達、対応 ○ 各社品質状況の整理およびモニタリング ○ お客様満足度の向上のために有効な各種品質改善活動を継続的に実施	● お客様に満足頂く製品・サービスを提供する為に、問題・課題の確実な抽出 ● 品質向上のための継続的改善取り組み強化・継続 ● 各社品質状況のモニタリング強化
<b>消費者課題②</b> 情報公開に対する取り組み	中期経営計画「2016～2018」をHPで紹介 展示会に出展し、昭和電線グループの製品と技術を紹介	● ウェブサイトを活用したステークホルダーへの会社情報発信力の強化
<b>コミュニティ</b> ○ 地域社会に対する取り組み	○ 工場見学、構外清掃、キッズISOの出前授業、地元主催の展示会&スポーツ大会への参加等による地域社会との交流	● 地域社会に対する取り組みの継続

## 昭和電線グループの概要(CSR報告書 2017年版)

### 会社概要(2017年3月31日現在)

商号	昭和電線ホールディングス株式会社
設立年月日	1936(昭和11)年5月26日
資本金	24,221百万円
取締役社長	中島 文明
本社所在地	〒105-6013 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号
連結子会社数	22社(国内15社 海外7社) ※昭和電線デバイステクノロジー(株)および昭和電線ビジネスソリューション(株)は、2017年4月1日付で昭和電線ケーブルシステム(株)に吸収合併されました。
持分法適用会社数	5社(海外5社)
連結従業員数	4,941名(国内2,797名 海外2,144名)

### 関係会社(2017年7月31日現在)昭和電線ホールディングス(株)〈持株会社〉

#### ■ 電線線材事業

##### ■ 製造・販売

- 昭和電線ケーブルシステム(株)
- 富士電線(株)
- 富通昭和線纜(杭州)有限公司\*
- 富通昭和線纜(天津)有限公司\*

##### ■ 販売

- (株)SDS
- 昭和電線電纜(上海)有限公司

##### ■ その他

- 昭和リサイクル(株)

#### ■ 電カシステム事業

##### ■ 製造・販売

- 昭和電線ケーブルシステム(株)
- 昭光機器工業(株)
- 特変電工昭和(山東)電纜附件有限公司\*

##### ■ 販売

- (株)SDS
- 昭和電線電纜(上海)有限公司

##### ■ その他

- (株)エステック
- 華和工程股份有限公司\*

#### ■ 巻線事業

##### ■ 製造・販売

- (株)ユニマック
- 多摩川電線(株)
- 天津昭和漆包線有限公司

##### ■ 販売

- (株)SDS
- 昭和電線電纜(上海)有限公司

#### ■ コミュニケーションシステム事業

##### ■ 製造・販売

- 昭和電線ケーブルシステム(株)
- 富士電線(株)
- 青森昭和電線(株)
- 富通昭和線纜(杭州)有限公司\*

##### ■ 販売

- (株)SDS
- 昭和電線電纜(上海)有限公司

##### ■ その他

- (株)アクシオ



## ■ デバイス事業

### ■ 製造・販売

- 昭和電線ケーブルシステム(株)
- (株)ダイジ
- (株)昭和サイエンス
- SWCC SHOWA(VIETNAM)CO., LTD.
- 嘉興昭和機電有限公司
- 東莞昭和機電有限公司
- 福清昭和精密電子有限公司

### ■ 販売

- (株)SDS
- 昭和電線電纜(上海)有限公司
- 香港昭和有限公司

## ■ その他

### ■ 製造・販売

- 昭和電線ケーブルシステム(株)

### ■ 販売

- 昭和電線電纜(上海)有限公司

### ■ その他

- (株)ロジス・ワークス

\*は持分法適用会社

## 国内拠点

### ■ 主な営業拠点

東京 大阪 名古屋 札幌 仙台 広島 福岡 高岡 高松 浦添

### ■ 主な製造拠点

青森県青森市 宮城県柴田郡 宮城県亍理郡 山形県酒田市 茨城県古河市 東京都大田区 神奈川県相模原市  
神奈川県海老名市 神奈川県伊勢原市 山梨県南アルプス市 愛知県豊川市 三重県いなべ市 岡山県赤磐市



仙台事業所(宮城県柴田郡)



古河工場(茨城県古河市)



相模原事業所(神奈川県相模原市)



海老名工場(神奈川県海老名市)



愛知工場(愛知県豊川市)



三重事業所(三重県いなべ市)



## 海外拠点

### ■ 主な営業拠点

上海 香港 台北 シンガポール

### ■ 主な製造拠点

中国天津市 中国山東省新泰市 中国浙江省嘉興市 中国浙江省杭州富陽地区 中国福建省福清市 中国広東省東莞市  
ベトナム ハノイ市



天津昭和漆包線有限公司  
(中国天津市)



特変電工昭和(山東)電纜附件有限公司  
(中国山東省新泰市)



嘉興昭和機電有限公司  
(中国浙江省嘉興市)



富通昭和線纜(杭州)有限公司  
(中国浙江省杭州富陽地区)

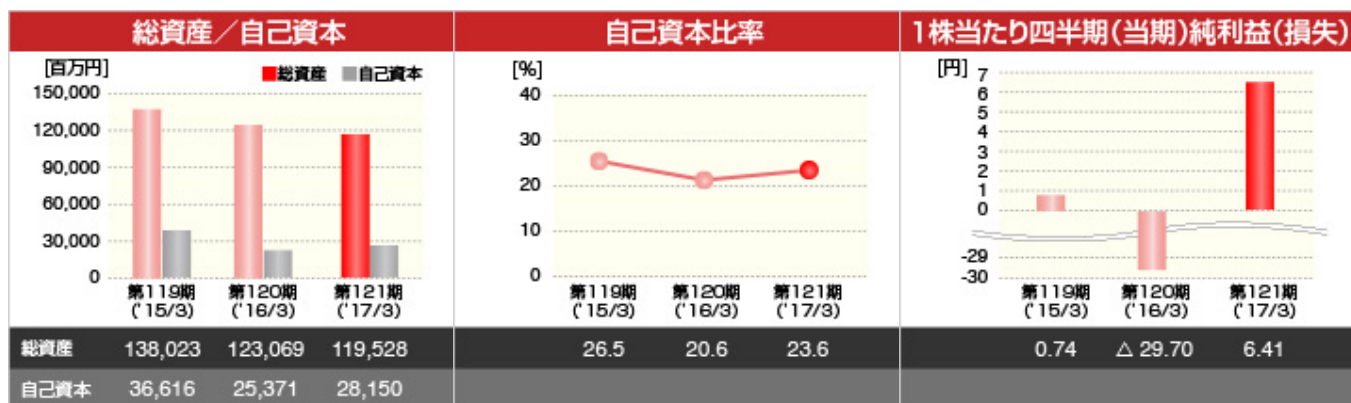


福清昭和精密電子有限公司  
(中国福建省福清市)



SWCC SHOWA(VIETNAM)CO., LTD.  
(ベトナム ハノイ市)

# 財務情報



## 昭和電線グループの概要(CSR報告書 2017年版)

### 主な製品・サービス

#### Electrical Wires & Cables

#### 電線線材事業

#### ■ 主な製品・サービス

裸線 ゴム・プラスチック被覆線 配電機器 母線 架空送電線

##### ■ 裸線

各種電線の銅導体の元材となるもので、要求に応じてさまざまな形態にて供給しています。



##### ■ レントゲンケーブル

国内外のX線用機器メーカーから高い評価を得ています。電子ビームやレーザー等の産業用途の高圧直流EPケーブルとしても、使用されています。



#### Electrical Power Systems

#### 電力システム事業

#### ■ 主な製品・サービス

電力ケーブル 電力機器 電力工事

##### ■ 超高压電力ケーブル

世界の電力送電網を支える270 kV以上の電圧で送電する電力ケーブル。長期的に高い信頼性を得るために、世界でもトップクラスの生産技術と絶縁材料の管理を実現しています。



##### ■ 電力用機器

SICONEX®(サイコネックス)ブランド製品。ダイレクトモールドやスマートケーブルヘッド、T形ケーブルヘッド等、革新的な絶縁技術を用いた、環境配慮型でコンパクトな高電圧電力ケーブル用コネクタです。



**SICONEX**

※ SICONEXは昭和電線ケーブルシステム(株)の登録商標です。

## Magnet Wires 巻線事業

### ■ 主な製品・サービス

巻線

#### ■ 巻線

家電や自動車用電装品に使われるモータ等のコイルとして、また、重電分野では、発電機や変圧器のコイルとして、電気が利用されるさまざまな分野で活躍しています。



## Communication Systems コミュニケーションシステム事業

### ■ 主な製品・サービス

光ファイバケーブル 通信ケーブル 通信付属品 光周辺機器・コネクタ 通信工事 ネットワークソリューション

#### ■ 光ファイバケーブル

高度情報化社会において、重要な役割を担っている光ファイバ。会社や家庭で欠かすことのできない情報インフラを支えています。



#### ■ ネットワークソリューション

ネットワーク/サーバインテグレーションからソフトウェア開発を含めた運用サービスまで幅広く提供しています。



### ■ 主な製品・サービス

ワイヤハーネス 免震・制振・制音デバイス 複写機・プリンター・印刷機用デバイス

#### ■ 免震アイソレータ

高層ビルやマンションの最下部で、長期間建物を安全に支え、地震時にはその地震力を緩和低減し、建物、建物機能、人命を守る天然ゴム系積層ゴム。ハイテクな設備を投入する半導体工場、病院でも活躍しています。



#### ■ ヒートローラ

複写機やレーザープリンターのトナー画像を加熱、加圧して溶融定着するローラ。紙に高速でプリントするために、精密さが要求されます。高い耐熱性と表面平滑性、耐久性を備えています。



#### ■ 遮音・吸音・防振・制振デバイス

「音を制御し快適な環境を創造する」ための「制音テクノロジー」製品群やシステム・サービスを提供します。



### ■ 主な製品・サービス

超電導事業 物流 他

#### ■ 超電導電流リード

液体窒素の温度領域で使用するイットリウム系超電導線や磁気に強い超電導磁石用端子(電流リード)を販売しています。



#### ■ 熱電変換素子

限られたエネルギーをより効率よく使うため排熱の有効利用を研究しています。現在、三重事業所の溶銅炉にて、実証試験しており、発電された電気は、事業所内の照明等に使用しています。また、300~600℃で使用する素子を開発し、試験も行っています。



## 組織統治(CSR報告書 2017年版)

### 昭和電線グループ経営方針

昭和電線グループは、経営理念である「信頼の輪をひろげる」ために、以下の経営方針を定め、取り組んでいます。

#### ■ 経営方針

1. 顧客第一に徹し、社会的に有用で、環境にやさしく、良質にして、安全に配慮した製品、技術およびサービスを開発、提供し、社会の発展に寄与する。
2. 国内外の法令、規則を遵守するとともに、倫理に基づく社会的良識をもって行動する。
3. 人間尊重の立場に立って、明るく働きやすい職場をつくり、従業員の自主性と積極性を高める。
4. 公正、透明、自由な競争に基づく企業活動を行い、適正な利益を確保する。
5. 政治、行政および地域社会との健全かつ正常な関係を維持する。
6. 企業情報を適時適切に開示し、株主はもとより広く社会へ企業広報を行なうとともに、情報の入手、利用、開示には厳正な管理を行なう。
7. 環境問題への取り組みが企業活動に必須の要件であることを認識し、豊かで健康な環境づくりに努める。
8. 良識ある企業活動を行い、反社会勢力および団体に対しては毅然とした態度で対応する。
9. 国際社会の一員として、現地の文化および慣習を尊重して企業活動を行い社会貢献に努める。

### コーポレート・ガバナンス

昭和電線グループのコーポレート・ガバナンスについてご紹介いたします。

#### ■ 基本方針

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、「信頼」をキーワードとした経営理念に基づき、経営の迅速・効率化およびこれに伴うモニタリング機能の強化が企業における普遍的な課題であるとの認識の下、取り組みを進めていくことであります。

また、企業として求められる社会的責任(CSR)を果たしていくことを念頭におき、昭和電線グループの業務の適正を確保するために必要な体制の整備についても積極的に取り組んでいきます。





## 内部統制システムの整備・運用・モニタリング

昭和電線グループでは、グループ各社にて「内部統制システム構築の基本方針」を定め、業務の適正を確保するための体制の整備・運用に努めています。その整備状況や運用状況については、監査統括部が中心となりモニタリングを実施し、グループ経営会議等にて報告・審議を行っています。

また、監査統括部の下に設置した内部統制評価室は、金融商品取引法に定められた内部統制報告制度について、金融庁の評価および監査に関する実施基準に沿って、財務報告の信頼性や業務の有効性および効率性に関する評価を実施し、内部統制責任者会議やグループ経営会議にて評価結果の報告および審議を行い、最終的に内部統制報告書として取りまとめています。

## コンプライアンス強化

当社グループにおいてはコンプライアンスを経営上の重要な課題の一つと位置づけており、法令等の遵守に向けた様々な取り組みをグループ内において実施しています。具体的な取り組みは、主にCSR委員会内に組織されているコンプライアンス体制構築推進部会において企画・立案された後、同部会の事務局でもある当社法務部門が中心となり実行しています。

中でも独占禁止法の遵守は、当社グループにとって重要かつ優先度の高いテーマであり、毎年、営業担当者向けに定期講習を開催するほか、独占禁止法に特化した内部監査を実施する等、特に力を入れて取り組んでいます。その他にも下請法や建設業法等の当社グループの事業に関連が深い法令に関する講習や階層別研修(新入社員研修、管理職研修等)に合わせたコンプライアンス教育を行う等、幅広くコンプライアンスの啓蒙を実施しています。

さらに、社内と社外(弁護士)に通報窓口を有するグループ共有の内部通報制度(「コンプライアンス・ホットライン」)を運営しており、コンプライアンス違反の未然の防止または早期発見のための体制も整えています。

当社グループは、これらの取り組みを継続していくことでコンプライアンスの強化・徹底に努めてまいります。



営業担当者向けコンプライアンス講習

## 情報セキュリティへの取り組み

昭和電線グループでは、2006年に『情報セキュリティガイド』を制定し、国内外のグループ会社でセキュリティ対策を継続して実施しています。2016年度の主な取り組みは、毎年継続して行っている各社員(派遣社員含む)に対してのセキュリティ教育を2016年12月~2017年3月に実施し、対象となる全社員の受講を確認しました。

### ■ 情報セキュリティ管理体制



### ■ 情報漏えい対策

- インターネット接続におけるFire Wallの導入
- 全てのパソコンへのウィルス対策ソフトの導入
- パソコンハードディスク、USBメモリの暗号化
- ファイルサーバ、社内システムへのアクセス管理
- パソコン、USBメモリの持出時における申請許可、受払い
- データセンター、事務所への入退出管理の実施

## BCM（事業継続マネジメント）

事業活動を行う上でいつ遭遇するかもしれない災害等の不測の事態を乗り越え、計画的に早期の復旧を行って事業継続を実現することによって有事での供給責任をはじめとする当社グループとしての社会的責任を果たしていくため、組織の事業継続に関する能力を平常時より維持・改善する活動であるBCM（Business Continuity Management：事業継続マネジメント）への取り組みを本格化させています。

CSR委員会の下部組織として「BCP構築推進部会」を立ち上げ、グループ各拠点の防災に関する体制のレビューを行うとともに、有事の際の早期復旧が特に求められるグループ内の重要事業を選定し当該事業の万が一の際の事業継続に向けた戦略、対策の検討を進めています。

## 輸出管理

昭和電線グループは、国際平和と安全維持のために、日本および関連の諸外国で制定されている輸出管理法規を遵守し、規制されている貨物や技術を不正に輸出または提供しないことを輸出管理の基本方針としています。

昭和電線ホールディングス(株)輸出管理室ではグループ会社の輸出管理業務および海外への技術移転に関して、適切な助言、指導を行っています。グループ会社輸出関連コンプライアンスを遵守するために計画的に業務監査、教育を行い、統一基準での輸出管理運用を徹底しています。また経済産業省へ「輸出管理内部規程」および「輸出者等概要・自己チェックリスト」を提出・受理されており、安全保障貿易管理に係る自主管理体制を整備している企業との認定を受けています。さらに2015年度から輸出管理委員会を再開し、グループ会社間の情報共有、意思統一を図る場として運用しています。今後の重要課題の一つとして、海外拠点における輸出管理体制の整備と強化を推進していきます。

また、輸出管理に対する意識向上、法令知識のレベルアップのため、輸出管理部門だけではなく、一般従業員に対しても輸出管理実務能力試験の受験を推奨し、グループ社全体の資格取得者増を目指しています。



輸出管理 相模原地区実務者教育

## 人権・労働慣行(CSR報告書 2017年版)

## 従業員に対する取り組み(人権・雇用)

昭和電線グループは「人間尊重の立場に立って、明るく働きやすい職場をつくり、従業員の自主性と積極性を高める。」という経営方針に基づいて、採用から退職までに関わる人事諸制度の構築を行っています。

## 人権の尊重・差別の禁止

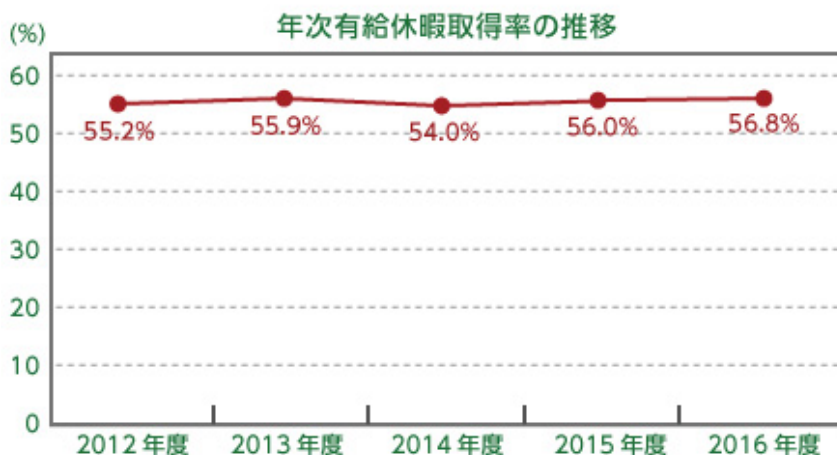
当社グループでは、人権・個人の人格・プライバシーを尊重し、法令遵守はもとより、差別的取り扱い等、基本的人権を侵害する行為を行わないことを「昭和電線グループ行動規範」に掲げ、多様な個性をもつ従業員が差別なく快適に働ける職場環境を構築すべく諸施策を実施しています。

具体的には階層別教育等にコンプライアンス研修を織り込み、人権意識の浸透と公平・平等な雇用システムの実現を図っています。

## ワーク・ライフ・バランス

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、長時間労働の抑制を目的として、毎年期初に6日間以上、有給休暇の使用予定日を部門長に申告し、計画的に取得していく「計画年次取得制度」や、毎年3日間連続および、勤続5年毎に5連続で有給の取得を推奨する「年次有給休暇連続取得奨励制度」を導入し、有給休暇を取得していくために労使一体となって取り組んでいます。

また長時間労働抑制のため、時間外労働40時間/月超過者について、健康状態のチェックと上長の面談に加え、それらの結果について産業医のコメントを受領する取り組みを行っています。



## ダイバーシティ

昭和電線グループでは、変化対応能力が求められる時代に対して従業員一人ひとりの多様性を生かして柔軟に適應できる組織を目指し、さまざまなバックグラウンドをもった多様な人材の登用を進めています。

## ■ シニアスタッフ制度

少子高齢化が進展する中、定年後も継続して就労を希望する意欲ある人材に対して活躍の場を提供するシニアスタッフ制度を運用しています。

この制度では正規従業員と同じ時間就労できるスタンダード勤務や、短時間・短日数のショート勤務等、継続雇用者に対して多様な働き方を用意しています。

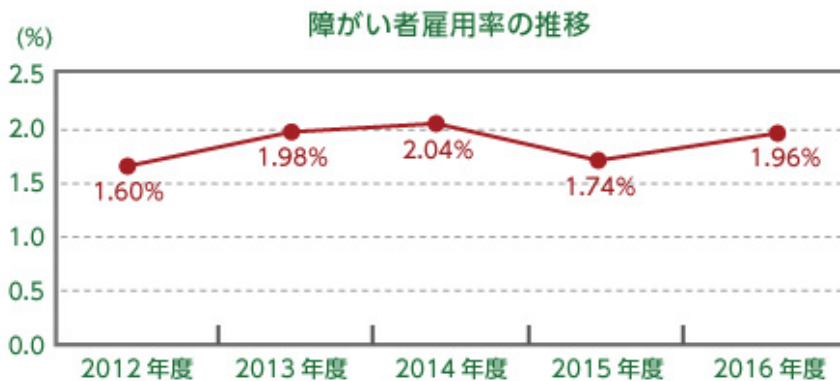
## ■ 正社員化と直接雇用の推進

非正規社員の増加が社会的にも注目される中、意欲ある人材を積極的に正社員として登用する等、従業員の生活と雇用の安定を図っています。

また同時に、派遣社員を直接雇用へ切り替える取り組みも進めています。

## ■ 障がい者の雇用

ノーマライゼーションの観点や関係法令の要請から、障がい者の雇用を推進しています。個々人の状態に応じた柔軟な勤務体制の実現等、無理なく働ける環境を整備しています。



※雇用率は昭和電線ケーブルシステム(株)から算出しています。

## ■ グローバル採用・キャリア採用

グローバルな事業展開に伴い国籍の垣根を超えた採用活動を行っています。また定期的な新卒採用だけでなく、多様な経歴をもつ方を受け入れるキャリア採用を展開しています。

### ■ 総合職採用に占める外国籍従業員の割合

	2014年	2015年	2016年
外国籍従業員	0%	5%	13%

### ■ 総合職採用に占めるキャリア採用の割合

	2014年	2015年	2016年
キャリア採用	33%	10%	13%

## ■ 女性従業員の雇用

性別にとらわれない公正・公平な人材登用を積極的に進めると同時に、女性従業員が安心して出産・育児を行えるよう支援する制度を充実化させる等、働きやすい環境作りに注力しています。

### ■ 全従業員に占める女性従業員の割合

2014年	2015年	2016年
15%	15%	15%

## 次世代育成支援

昭和電線グループでは次世代育成支援対策推進法の定めに基づき、次代の社会を担う子どもを育成する従業員を支援する環境を整備し、仕事と子育ての両立を図るための各種制度を整備しています。

## ■ 各種休暇制度の拡充

2016年度は第5次事業主行動計画に定めた「積立休暇の利用要件拡充」の取り組みとして「子の看護休暇の利用要件の拡充」、「母性保護休暇の取得対象者の拡大」を行いました。

子の看護休暇の利用要件については、子の看護に加え、疾病予防を目的としている場合についても取得可能としました。母性保護休暇の取得対象者については、従業員本人に加え、従業員の配偶者に対する付添いや看護などを目的とした場合についても取得可能としました。従来の制度をより利用しやすくすることで、育児や介護等の事情を抱える従業員の両立支援をサポートしています。

## ■ 結婚・出産・育児・介護者の再雇用制度

結婚や出産、育児、介護等のため退職した方を再雇用できる制度を運営しています。やむを得ず退職した場合にも、希望に応じて復帰も可能な道を開いています。

## ■ 男性従業員の出産休暇制度

女性従業員の産前産後休暇はもちろんのこと、出産をひかえた妻をもつ男性従業員も、出産予定日前後の5日間について出産休暇を取得することができます。



## ■ 法定を上回る産前産後休暇制度

当社の産前産後休暇は出産後の体力的・精神的な負担を考慮し、法定の就労禁止期間の8週間を上回る10週間まで取得することができ、産後休暇後の復職も体調に合わせて無理なく実現できる制度となっています。

## ■ 短時間勤務制度

小学校2学年に達する前の子を養育する従業員に対し、始業を2時間遅らせたり、終業を2時間早めたりといった安心して子育てに取り組める勤務制度です。

## ■ 家族サービスデー

仕事にメリハリをつけるとともに、家族と過ごす時間を増やすことを目的として、月に1日～2日定時退社日を設け、家庭生活の充実に支援しています。

## 仕事と介護の両立支援

超高齢化社会を迎えている日本社会において、近年、介護は避けては通れない問題となってきており、昭和電線グループでは、仕事をしながら介護を両立できるような制度や支援体制を整備しています。2016年度には制度改定に向けた以下の取り組みを実施しました。

### ■ 仕事と介護の両立支援セミナーの実施

従業員の介護の実態に関する調査の結果で多数意見の挙がった「介護を行う時にどういったことが起こるのか分からない」、「会社に介護休業制度があることを知らない」等の声に着目し、介護に関する事前準備の内容や、介護事例の紹介等の情報提供を中心とした外部講師による「仕事と介護の両立支援セミナー」を実施しました。(6月に相模原地区にて実施。)

実施後の参加者のアンケート結果も約95%の方から参考になったという回答があり、今後も継続した取り組みとして定期的に各事業所で実施していきます。また、このセミナーをきっかけとして、職場全体で日頃から介護の話題を話しやすくなり、介護に対する職場の理解が高まることで、介護離職の防止に繋げることも二次効果として期待しています。



仕事と介護の両立支援セミナー

## メンタルヘルス

2008年8月に厚生労働省から発表された「職場における労働者の心の健康づくりのための指針」に基づき、各方面からメンタルヘルス向上への施策を行うとともに、セクハラ・パワハラに対するサポート体制の充実化を図っています。

### ■ ストレスチェック

労働安全衛生法に基づき、2015年12月に「ストレスチェック制度」が施行されました。年1回のストレスチェックの実施が義務付けられましたが、当社では2007年よりストレスチェックを先行して導入しています。従業員の日頃のストレス反応や、行動による対処(コーピング)を数値化することにより、従業員のメンタルヘルス不調への気付きを促しています。

### ■ メンタルヘルス・マネジメント研修

ライン長を対象とした研修を実施しています。職場のストレス状態を管理監督者が把握することにより、ストレスの具体的要因の早期発見や作業環境の改善が可能な体制を実現しています。

### ■ ストレスチェックとセルフケア研修

ストレスについて理解を深める、ストレスと上手につきあうための対処法を知る等、ストレスの自己管理方法を学ぶセルフケア研修を実施し、従業員のメンタルヘルス不調の予防、ストレスマネジメントに役立てています。

### ■ メンタルヘルス・セクハラ・パワハラ相談窓口

心理カウンセラーや専門医といった専門家がサポートする相談窓口を設置しています。メンタルヘルスのみならず、セクハラ・パワハラ専用の窓口もあり、幅広く適切なケアができるようになっています。



## ■ リハビリ勤務制度

体調不良等により欠勤や休職となるケースのサポートとして、復職に際して計画的・段階的に無理なく職場復帰できる制度を運用しています。

## ■ メンタルヘルス専門医の駐在

昭和電線グループで最大規模の相模原事業所では専門医と契約し、予約制による相談および緊急時対応や他事業所での事例相談等ができる体制としています。

## 労使関係

昭和電線ホールディングス(株)・昭和電線ケーブルシステム(株)の従業員は昭和電線労働組合に加入しており、労使がお互いの立場を尊重しながら労働条件の維持・向上や経営課題に取り組んでいます。

具体的には、グループ全体の施策について話し合う「経営協議会」、人事異動や規程類の整備改定を調整する「定例労使ミーティング」、事業所における安全や労使問題を協議する「労使懇談会」をはじめとして「時間管理委員会」や「年金委員会」等各種委員会において十分な意見交換を行い、働きやすい環境づくりと労使関係の強化に努めています。

また55歳間近の組合員とその配偶者を対象に、定年後の生活をより豊かに生きがいをもって暮らしていただくため、労働組合主催の「クリエイティブ・ライフセミナー」に協賛し、定年後の生活設計を支援しています。

## 海外の雇用・福利厚生

2017年3月末時点の当社グループ連結対象会社のうち、海外拠点の従業員数は2,144名となっています。国内でもグループ主要2社(昭和電線ホールディングス(株)、昭和電線ケーブルシステム(株))において25名、外国籍従業員が勤務しています。

海外拠点における雇用にあたっては、ILO(国際労働機関)の「就業の最低年齢に関する条約」を遵守するとともに、現地の労働法や雇用制度に沿った適正な労務管理を行っています。

また海外拠点の福利厚生に関して社員旅行の実施や日用品の支給、昼食の充実等の取り組みを行っているほか、海外に駐在する従業員の健康管理や、傷病への迅速な対応等医療サービスの充実にも努めています。



中秋の月餅を社員にプレゼント  
(SWCC SHOWA (VIETNAM) Co.,LTD)



会社+労働組合主催のバーベキュー実施  
(福清昭和精密電子有限公司)

## 従業員に対する取り組み(教育)

企業の根幹を成す人材の意欲向上や能力開発を進めるために、従業員に様々な研修を提供すると同時に資格取得を奨励する制度を運用しています。

### 研修制度

昭和電線グループでは、従業員の力は会社の力という考えを基に、幅広い知識と行動力をもってあらゆる問題を解決できる人材、めまぐるしく変化する社会環境に柔軟に適応できる人材、そしてなによりステークホルダーのみならず「信頼」される人材育成を目指し、教育・研修制度を運営しています。

各職位に応じて必要な知識を習得する階層別教育では、入社前の内定者から取締役に至るまで各階層に必要とされるスキルを習得する研修を行っています。

職能別教育では、昭和電線グループ共通に必要な基礎知識から各専門分野を深く掘り下げるものまで幅広く教育メニューを用意しています。

	総合職			技能職・一般職						
取締役										
部長級										
課長級										
主任	階層別スキル	職能別スキル	資格取得奨励	能力開発・自己啓発						
中堅社員										
入社3年目					階層別スキル	職能別スキル	資格取得奨励	能力開発・自己啓発		
入社2年目										
入社1年目										
入社前										



職能別スキル研修

### 海外短期駐在員研修

経済活動のボーダレス化、コミュニケーションツールの発達により急速にグローバル化が進むなか、今後さらに需要拡大が見込まれる海外への販売拡大を加速させるため、国境の垣根を超えてグローバルに活躍できる人材を育成する研修制度を運営しています。

当研修制度では半年～1年に一度対象者を選出し、昭和電線グループの海外現地法人にて実際の業務運営を経験し、国際的に通用するビジネス感覚の強化を支援しています。

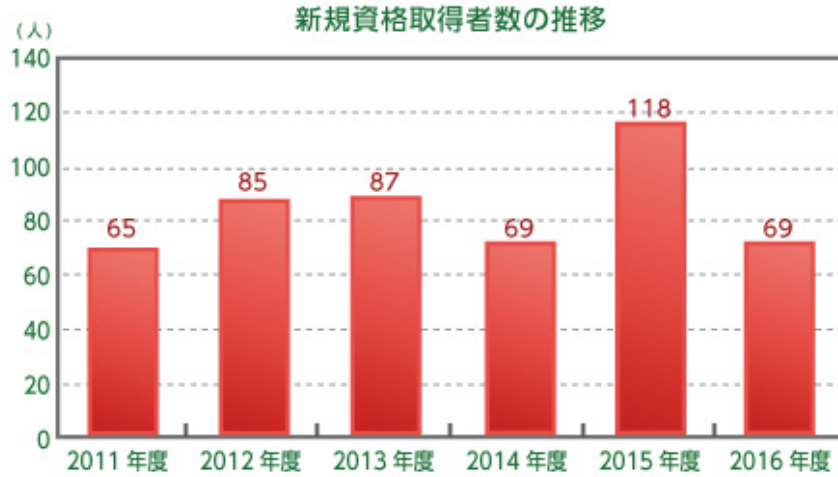
また逆に海外現地法人のプロパー従業員を日本の事業所にて研修を行う等、相互交流を図りながら、昭和電線グループ全体として海外に通用する人材の強化に努めています。

## 資格取得奨励制度

事業運営上必要な公的資格の取得奨励と安定的な事業運営・技能継承の実現および自己啓発の促進を目的として資格取得奨励制度を運用しています。

製造業として業務上必要な電気主任技術者やエネルギー管理士等の技術資格をはじめとして、各種資格を対象に、取得者には報奨金や毎月の手当を支給しています。また、各部門における職務遂行に必要な専門的知識の体系的な習得を目的として、「ビジネス・キャリア検定」の受験を奨励しています。

他にも、グローバル企業としてTOEIC受験や中国語の資格である中国語検定試験(中検)やHSK(漢語水平考試)の受験奨励等語学力の強化を促しています。



## 安全・衛生

昭和電線グループは安全で快適な職場環境を作り、社会に安心と信頼を与える行動を広げるため、法令および社内規定を遵守するとともに、『安全はすべてに優先する』を基本に安全衛生活動を推進しています。

### 2016年安全衛生活動方針

2016年昭和電線グループ安全衛生活動方針、および以下の重点テーマを国内・海外グループ全拠点に周知し、グループ統一の安全衛生活動を展開しています。

#### ■ 2016年安全衛生活動方針

1. 職場に潜む不安全を顕在化し、職場を安全で快適な環境にします。
2. 労働災害ゼロを目指して、職場のリスク低減、ヒューマンエラーによる災害の撲滅に取り組みます。
3. 従業員の心とからだの健康づくりに取り組みます。

#### ■ 2016年安全衛生活動の重点テーマ

1. 管理監督者による安全配慮  
5S励行、安全継承の徹底、**1-2-3運動**(現場観察と対話)、安全教育の推進(高齢者および経験の浅い人への教育)
2. 安全の先取り  
リスクアセスメント実践、KY(危険予知)と指差呼称の励行、**ヒヤリハット提案**の推進、異常措置対応(止める・呼ぶ・待つ)の徹底、安全体感教育の推進
3. 危険感受性を高める活動  
**危険予知体感教育**、指差呼称、個人(職場)安全宣言
4. 心とからだの健康づくり  
メンタルヘルスクエアによる心とからだの健康維持・増進、職場ラジオ体操励行、職場のコミュニケーション向上





## 2016年安全衛生活動

2016年の昭和電線グループの労働災害は、国内で休業5件を含む25件、海外で11件発生しました。国内の労働災害では、半数近くを若年層（29歳以下）が占めました。今後は、若年層の再教育、リスクアセスメント、ヒヤリハット提案の推進による不安全状態解消、危険予知体感教育を活用した危険感受性向上などの取り組みを推進し、労働災害撲滅を図っていきます。

### ■ 青森昭和電線が『あおり健康づくり実践企業』に認定されました

グループ社の青森昭和電線株式会社が、日頃の健康づくりに向けた取り組みが評価され、青森市より『あおり健康づくり実践企業』に認定されました。2017年2月13日に青森市長より認定証が授与され、その様子は地元のニュース番組でも取り上げられました。



健康づくり実践企業に認定

（右端が平方青森昭和電線社長、中央が小野寺青森市長）



青森市長から認定書授与

青森昭和電線株式会社では、安全衛生活動方針の一つに健康経営の実践を掲げ、明るく快適な職場づくりと心とからだの健康づくりを推進しています。2016年度は、健康づくり担当者を育成するため、青森市が実施した職域健康づくりリーダー育成ゼミに参加しました。健康づくりリーダーは毎月1回朝礼時に健康講話を行い、従業員の健康知識の向上に努めます。また、運動習慣に関する取り組みとして毎朝のラジオ体操や、労働災害防止策として社内講師による腰痛予防セミナーを開催するなど、内面・外面の両面から健康推進を図っています。

また、地域貢献活動として、AED設置を消防署に登録し、「あおりまちかどハートステーション」に認定されています。近隣で救助災害が発生した場合、機器の貸出だけでなく、人命救助に役立つよう、毎年、専門講師を招き、救命講習も実施しています。

工場がある青森西部工業団地の地域清掃活動にも毎年参加し、工業団地周辺の美化活動を実践し地域貢献にも努めています。



救命講習の様子



青森西部工業団地の地域清掃活動

## ダイバーシティ・インタビュー



嘉興昭和機電有限公司(JSIP)  
業務統括部長 櫻華さん

私は櫻華と申します。1997年に浙江省紹興市の日本語学校を卒業しました。仕事で日本語を使いたかったので、1997年10月に日系企業である嘉興昭和機電有限公司(JSIP)に入社して、現在は業務統括をしています。

JSIPは嘉興市の開発区に一番早く進出した日系企業で、今までに嘉興市政府や、たくさんのお客様から何度も表彰を受けている優良会社です。入社当時から、会社の日本人の方は優しく、事務所の同僚も親切でしたので、この会社でがんばりたいと思いました。また、会社の営業許可上の成立日が自分の誕生日と同じ日で、会社との縁も感じました。

JSIPの主な製品はワイヤハーネスです。ワイヤハーネスというのは洗濯機、レンジ、冷蔵庫等の家電や自動車等の内部配線に使用されるもので、電源供給や信号通信を目的に複数の電線を束状にし、配線し易い長さに形状にしたものです。JSIPではお客様の仕様に合わせた様々なワイヤハーネスを製造しており、主要なお客様は日系の家電メーカーや大手電器製品メーカーです。

時間がたつのは早いもので、今年の10月で入社して20年になります。入社当初の半年ぐらいは通訳として仕事をしましたが、そのあとは生産管理、貿易輸出入、資材などの業務を勤めました。また会社の生産システムの導入、運用とメンテナンスに参画し、それらの管理もしました。現在は業務統括で、生産管理、貿易、資材、ITなどを管理しています。違う部門の仕事をしてきたので、いろんな知識を勉強できました。また貿易では、税関の監査や税務関係で国税の移転価格調査などの対応をして、貴重な経験を積みました。それらの知識や経験により、仕事上で自信を持つようになりました。近年は会社の改善活動のリーダーとして、みんなと一緒にSPS(Showa Production System)活動

を行っています。

SPS活動との出会いは、2008年頃から昭和電線グループのSPS活動について、海外現地法人向けの勉強会が開催されることになりました。自分もSPS活動を勉強したいと思い、勉強会へ参加しました。勉強会では、七つのムダ、標準三票や、カンバン方式などの説明があり、こういう改善手法があることがわかって、SPS活動に増々興味を持つようになりました。

勉強会以降は、会社の改善活動に参加するようになりました。今までに「在庫の削減」、「リードタイムの短縮」、「生産効率の向上」、「ムダの排除」、「仕事の流れ化」、「標準作業の確立」、「品質の向上」などいろんな改善をしてきました。

一番感じたのはやっぱり会社の基本は「人」であることです。いままでJSIPの現場スタッフたちには自分で考える力を持つようするため、いろいろ教育指導、改善活動の実践などをしてきました。人の考え方を考えるように教育することはとても大変なことだとわかりました。教育するには、ゆっくり時間をかけて、指導を繰り返さなければなりません。特にJSIPの場合、現場管理者は全部現場の作業員から選ばれた人で、ほとんどの人の学歴は中卒です。彼らの考え方を考えて、力を持たせるためには、最初は理論の知識を教えて、それから実際にやって見せて、その後みんなと一緒にやりながらもう一回教える。最後は自分たちで考えさせて、行動させるようになってきました。

例えば、JSIPでSPS活動をするとき、最初はテーマを決めてあげて、やり方を誘導し、報告資料も一緒に作るような活動をしますが、徐々にみんなもやり方を覚え、自分たちで考えるようになり、次の活動のときは現場のみんなだけで考え、テーマ決めから報告資料の作成まで活動を自分たちで行うようになりました。

これからも私は新しいことを勉強しながら、自分の能力を上げて、リーダーシップを発揮できる人間を目指していきたいです。また会社の仲間と一緒に成長して、JSIPの一員として、昭和電線グループの一員として、会社やグループに貢献できるようにがんばっていきたくと思っています。



## 環境(CSR報告書 2017年版)

### 環境マネジメント体制

経営理念に基づき、グループ各社が一丸となって環境保全活動に取り組んでいます。

### 環境基本方針

昭和電線グループは、経営理念に沿った環境基本方針を制定しています。

#### ■ 昭和電線グループの環境基本方針

##### ■ 基本理念

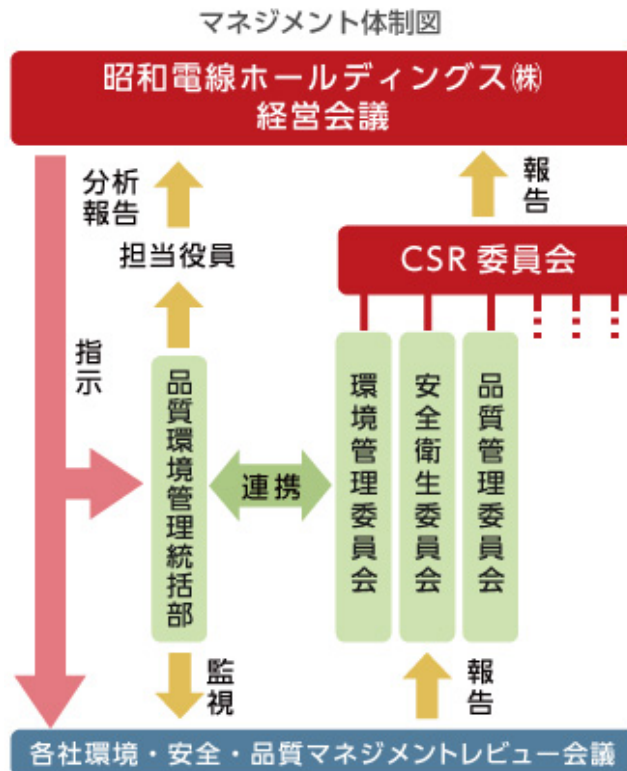
昭和電線グループは、かけがえのない地球を健全な状態で次世代へ引き継ぐことが我々企業市民の使命であることを認識し、すべての事業活動を通じ環境保全に努め、持続的発展が可能な社会の構築に貢献する。

##### ■ 基本方針

1. 昭和電線グループは、環境負荷の少ない製品、資源リサイクルに配慮した製品を積極的に開発し、環境負荷を低減する。
2. 昭和電線グループは、事業活動におけるすべての段階の環境への影響を適切に評価し、省エネルギー、省資源、廃棄物や有害化学物質の削減等に努め、地球温暖化防止、循環型社会の実現等に貢献する。
3. 昭和電線グループは、環境規制を遵守することはもとより、より厳しい自主管理基準を設定した環境管理を実施し、環境監査等を通じシステム及び環境施設の管理レベルの向上に努める。
4. 昭和電線グループは、環境教育を通じ社員一人ひとりの環境意識を高めると共に、地域社会との協調及び社内外の良好なコミュニケーションの維持に努める。

### 環境マネジメント体制

環境マネジメントシステムの継続的な改善を目的に、以下の体制で活動しています。



## マネジメントシステム状況

昭和電線グループ各社のISO14001の認証取得と「エコアクション21」の登録状況は以下の通りです。

### ■ ISO14001認証取得状況

グループ会社名		取得年月	認証機関	
国内	昭和電線ケーブルシステム(株)	本社・相模原事業所※1	1997.11	JACO
		仙台事業所	1998.09	JACO
		三重事業所	1998.11	JACO
		愛知工場	1999.09	JACO
	富士電線(株)	1999.12	LRQA	
	(株)ダイジ	2001.03	JET	
	多摩川電線(株)	2001.03	JSA	
海外	SWCC SHOWA(VIETNAM)CO.,LTD.(SVC)	2008.03	QUACERT	
	嘉興昭和機電有限公司(JSIP)	2004.10	CQC	
	天津昭和漆包線有限公司(TSW)	2011.12	DNV	
	東莞昭和機電有限公司(DSIP)	2009.01	貝爾国際検証技術服務	
	福清昭和精密電子有限公司(SSD)	2008.05	CUC	
	富通昭和線纜(杭州)有限公司(FSH)	2013.05	環科環境認証中心	

※1 古河工場、海老名工場は、相模原事業所の認証範囲に含まれています。

### ■ エコアクション21登録状況

関係会社	取得年月
青森昭和電線(株)	2006.10
(株)エステック	2005.05
昭和リサイクル(株)	2005.04

## 環境監査

ISO14001環境マネジメントシステムの第三者審査の受審(外部審査)および内部監査の実施に加えて、昭和電線グループ独自の取り組みとして「[環境リスク監査](#)」を定期的の実施しています。[環境リスク監査](#)では、環境マネジメントシステム(EMS)の運用状況、環境保全施設等の現場管理状況、ボランティアプラン(VPE)の進捗状況を自主基準で評価しています。[環境リスク監査](#)は、グループ会社間の相互監査としても機能しており、改善要望事項や優良事例の水平展開を行っています。また、監査結果を各グループの経営層や環境管理責任者へ報告することによって、グループ内環境保全活動のレベル向上に努めています。

### ■ 国内拠点の環境監査実施状況

国内拠点における環境監査を毎年実施し環境リスクの低減および環境保全活動のレベル向上を図っています。



外部審査(三重事業所)



環境リスク監査(三重事業所)

### ■ 海外拠点の安全環境監査実施状況

海外拠点においては、安全環境監査および安全環境教育を定期的の実施し、安全環境のリスク低減を図っています。

## 環境監査実施状況

2016年度のISO14001外部審査、内部監査、[環境リスク監査](#)を下表の通り実施しました。

■外部審査 ●内部監査 ▲環境リスク監査

グループ会社名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国内	本社						●	■					
	昭和電線ケーブルシステム(株) 相模原事業所					▲	●	■					
	昭和電線ケーブルシステム(株) 三重事業所					▲	■					●	
	昭和電線ケーブルシステム(株) 仙台事業所					■		▲		●			
	昭和電線ケーブルシステム(株) 愛知工場	●				■	▲						
	昭和電線ケーブルシステム(株) 古河工場						●	■	▲				
	昭和電線デバイステクノロジー(株) 海老名工場						▲●	■					
	富士電線(株)			■	●				▲				●
	(株)ダイジ					■				▲			●
	多摩川電線(株)								▲●		■		
海外	SWCC SHOWA(VIETNAM)CO.,LTD.(SVC)			■			●						
	嘉興昭和機電有限公司(JSIP)		■										●
	天津昭和漆包線有限公司(TSW)						●		■				
	東莞昭和機電有限公司(DSIP)						●						■
	福清昭和精密電子有限公司(SSD)	●		■									
	富通昭和線纜(杭州)有限公司(FSH)		■								●		

## 緊急事態への対応

事故等により環境に影響を与える可能性のある設備・施設については、それぞれの設置・構造基準を環境構造物指針に定め、施設の責任者の明確化、3S、誰でも異常を発見できる仕組み(目視管理等)、異常時の対応資材の準備、重要計器類の校正等の管理の充実を図っています。

また、想定される緊急事態への対応訓練を年1回以上実施するとともに、[環境リスク監査](#)において緊急時対応手順に基づいた行動の状況、緊急処置内容の妥当性・安全性を確認しています。



緊急対応訓練(愛知工場)

## 環境法規制の遵守

環境法規制の遵守について、特に問題は発生していません。今後も法規制の遵守について一層の注意を払っていきます。なお、法規制に関する利害関係者からの苦情等はありませんでした。※過去5年間

- 違反等の件数 なし
- 罰金・科料の件数 なし
- 環境関連訴訟 なし

## 教育・啓発活動

昭和電線グループでは、従業員一人ひとりが環境保全への理解と自覚を深め日常の業務に生かせるよう、環境に係わる各種の教育を実施しています。

1. 一般従業員への階層別教育
2. 新入社員教育
3. 環境影響度の大きい業務に従事している従業員への教育
4. ISO14001の内部監査員の資格認定教育
5. 「[環境リスク監査](#)」の監査員の資格認定教育

国内・海外の法規制関係の最新情報は、環境事務局から環境管理責任者へ毎月発信しています。また、[環境リスク監査](#)後に法規制等の最新情報を含めた教育を実施しています。

その他に「環境ニュース」を発行、各サイトでは一般従業員に向けた環境コーナーを設け、環境方針、環境情報等の浸透を図っています。



内部監査員資格認定教育(相模原事業所)



環境リスク監査員資格認定教育実務研修



環境(CSR報告書 2017年版)

環境自主行動計画

第6次グループ環境自主行動計画（ボランタリープラン）

2016年度より、新たに第6次環境自主行動計画を策定し、5ヶ年の取り組みをスタートさせました。この活動を中心に、環境パフォーマンスの向上ならびに環境マネジメントシステムの継続的な改善を図っていきます。

環境目的	活動項目	到達目標(2020年度)
地球温暖化防止	省エネルギー(CO2削減)	2020年度までにエネルギー原単位を基準値*から5%以上削減する。
資源有効活用	廃棄物の排出量削減	2020年度までに排出量原単位を基準値*から5%以上削減する。
	ゼロエミッションの推進	全製造拠点でゼロエミッションを維持する。
化学物質の管理強化	VOC大気排出量削減	2020年度までにVOC大気排出量を基準値*から14%以上削減する。
	VOC大気放出率改善	2020年度までにVOC大気放出率を5%以下とする。
環境貢献製品の拡大	環境貢献製品の拡大	環境貢献製品の登録拡大を図る。
環境保護、生物多様性の保全	環境保護、生物多様性の保全	生態系への負荷を抑制する取り組みを推進する。 緑の保全と緑化を推進する。

2016年度環境管理活動の結果

2016年度は、下表に示す通り廃棄物の排出量削減を除き目標を達成することができました。

活動項目	2016年度目標	実績	評価
省エネルギー(CO2削減)	エネルギー原単位を基準値*から1%以上削減する。	8.7%	○
	省エネ改善施策により、エネルギー消費量を基準値*から0.9%以上削減する	2.0%	○
廃棄物の排出量削減	排出量原単位を基準値*から1%以上削減する。	2.5%増加	×
ゼロエミッションの推進	全製造拠点でゼロエミッションを維持する。 (廃棄物最終処分率を排出量の0.5%以下にする。)	全拠点が0.5%以下	○
化学物質の管理強化	VOC大気排出量を基準値*から9%以上削減する。	23%	○
環境貢献製品の拡大	環境貢献製品の新規登録件数6件以上を目指す。	15件	○
環境保護、生物多様性の保全	生物多様性ガイドラインを展開した取り組みを推進する。	取り組みを実施	○

\*基準値（2010年度～2014年度実績の平均値）



### ■ 1. 仙台事業所における省エネルギー活動

仙台事業所では、省エネルギー対策委員会で年間の削減目標を掲げ、毎月フォローを行っています。2016年度は、エネルギー削減量（原油換算）196.4kL（省電力559千kWhなど）、エネルギー削減率3.9%を目標に設定しました。

結果は、エネルギー削減量286.5kL（省電力1,092千kWhなど）、エネルギー削減率5.7%と目標を達成することができました。

省エネルギー活動の主な内容は、通信ケーブルの生産効率改善で690千kWhと仙台事業所の成果の約7割を達成しています。他に、アルミOC生産効率改善、裸線の伸線機線速アップ、工場照明のLED化等に取り組みました。

また、仙台事業所では敷地内で太陽光発電（990kW）を行っており、2016年度年間発電量1,404千kWh（CO<sub>2</sub>換算780.6t）の売電を行いました。



仙台事業所 太陽光発電

## ■ 2. 愛知工場の取り組み - ヤギで除草中！

愛知工場は、緑地面積が34,000 m<sup>2</sup>もあり、毎年の除草費もかなり高額になっていました。一昨年、いつもお願いしていた除草業者が廃業してしまい、どうしようかと思案していた時、工場長から「テレビでヤギを使った草刈りの放送をしていたよ」との話がありました。隣町にヤギを20頭ほど飼っているNPO法人「やぎのみえる風景」があるのを思い出し、お願いしました。工場内にヤギ舎と食事場（除草場所）の囲いを準備し、5月からシバヤギという種類のヤギを6匹レンタルして除草を始めました。

日々のヤギの世話は、ヤギ小屋に近い工務係の精鋭にお願いしていますが、通りがかりの従業員や、ヤギ舎の近くを通る出入りの業者の方々が毎日覗き込み、触れ合いを楽しんだり、好物の蔦の葉をあげたりしています。女性従業員も昼休みに日課のように立ち寄り、「癒されるね」と目を細めています。工場見学の方たちにも見ていただいて、今ではすっかり人気者です。

出産で3頭増え、今では9頭になりました。この一年で、草よりも木の芽が好きなど、本には書いていないヤギの特性などもわかってきました。

除草作業にかかる経費と雑草の焼却に伴う二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の削減、ヤギのふんによる樹木の栄養補給効果を期待されて、放牧された9頭のヤギたちは、いっぱい伸びた雑草を一心不乱に食べながら「うめエ〜」と声を上げています。



愛知工場ヤギ草刈り隊



ヤギ、癒されるね！

### ■ 3. 富士電線、青森昭和電線における「省エネ投資促進事業」を活用した省エネルギー活動の取り組み

富士電線株式会社および青森昭和電線株式会社では、経済産業省・資源エネルギー庁所管の平成27年度補正予算に基づく「中小企業等の省エネ・生産性革命投資促進事業補助金」を活用し、各種老朽化機器等の計画的設備更新を実施することを通じて省エネ化を推進しています。

富士電線では、水銀外灯LED化13灯、蛍光灯LED化223灯、エアコン18台、トランス2台の更新を2016年9月に終え、年間約57.7MWhの電力量削減効果が見込まれています。青森昭和電線では、蛍光灯およびメタルハライドランプ計539灯を照明配置の最適化を考慮した上で計443灯に灯数を削減。更新を2016年12月までに実施、終了しました。同更新により年間約283.7MWhの電力量削減が見込まれており、メタルハライドランプの更新が大幅な削減効果を得る上で寄与しています。

両社の取り組みにより、省エネ効果に加え、本補助金の採択額は6.4百万となり、設備投資費用の圧縮が図られました。

また、照明関係更新の結果、事務所、工場内など関係職場の照度環境が改善され「明るくなった」等好評を得ています。



富士電線の改善事例



青森昭和電線の改善事例

環境(CSR報告書 2017年版)

2016年度 マテリアルフロー

昭和電線グループ マテリアルフロー

昭和電線グループでは、経済、環境、社会の各側面のバランスを考え、省エネ、温暖化対策、排出物削減等の環境負荷低減活動を継続的に推進しています。(集計範囲：昭和電線グループの国内16社を対象としています。)

INPUT

エネルギー	電力	106 百万kWh
	重油	64 kL
	灯油	75 kL
	液化石油ガス	3 千t
	都市ガス	589 千m <sup>3</sup>
計	1,232 百万MJ	
水資源の利用	用水	736 千m <sup>3</sup>
原料	銅	133 千t
	アルミ	4 千t
	鉄	5 千t
	プラスチック	26 千t
	紙	574 t
木材	15 千m <sup>3</sup>	
化学物質	PRTR 物質取扱量	969 t

輸送量	98,171 t
走行距離	3,782 千km
燃料(軽油)	1,016 kL

リサイクル	廃電線回収量	7.3 千t
廃電線回収 昭和電線グループの再資源化を事業とする昭和リサイクル㈱での各電力会社、NTTグループ各社からの廃電線の回収量を表しています。		



OUTPUT

大気環境負荷物質の排出	CO <sub>2</sub>	67 千t-CO <sub>2</sub>
	NO <sub>x</sub>	13 t-NO <sub>x</sub>
	SO <sub>x</sub>	0.8 t-SO <sub>x</sub>
地球温暖化の原因となるCO <sub>2</sub> の排出削減のため、各種省エネ施策の導入と設備の効率化に取り組んでいます。		

排水	排水量	513 千m <sup>3</sup>
排水量の削減のために、用水の使用量の合理的な削減に取り組んでいます。		

廃棄物の排出	排出量	6.1 千t
	再資源化量	5.8 千t
	再資源化率	94 %
循環型社会形成の基本原則である、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の優先順位に沿った活動を実施しています。		

化学物質の排出	PRTR物質排出量	16.0 t
PRTR法対象の排出物質は、ほとんどが揮発性有機化合物(VOC)で、排出量の削減を図っています。		

生産量 <sup>*1</sup>	投入銅量	133 千t
環境配慮型製品の売上高比率向上を図ることにより、製品の環境負荷の低減に取り組んでいます。		

\*1:生産量は投入銅量で示しました。

大気環境負荷物質の排出 <sup>*2</sup>	CO <sub>2</sub>	2.6 千t-CO <sub>2</sub>
	NO <sub>x</sub>	30 t-NO <sub>x</sub>
	SO <sub>x</sub>	0.1 t-SO <sub>x</sub>
輸送効率向上、共同配送、デジタルタコグラフの導入による運転技術の向上等を積極的に行っています。		

\*2:昭和電線グループの物流を事業とする関ロジス・ワークスの負荷全体を表しています。



## 環境保護、生物多様性および自然生息地の回復

昭和電線グループは、自然の生み出す恵みを支える生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用に取り組むことで、豊かな自然を未来の世代につないでいきます。2016年度の活動として、相模原事業所の取り組みを紹介します。

### 1. 『相模原の環境を良くする会』への参加

相模原事業所は、『相模原の環境を良くする会』の役員会社として会の事業に積極的に参加しています。2016年度に参加した活動のうち代表的なものを紹介します。

#### ■ 7月31日(日)「夏休み環境教室」

青野原オートキャンプ場において市内の小学生を対象とした「夏休み環境教室」を実施、水生生物の観察や竹細工教室のお手伝いを行いました。



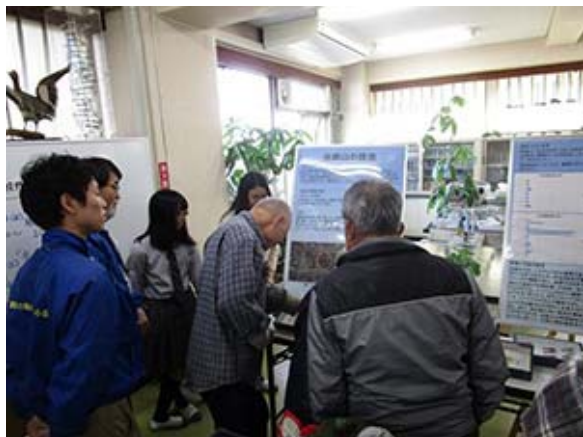
道志川の水生生物の観察



竹細工教室(竹トンボの製作)

#### ■ 11月13日(日)「カワラノギクと河原の植物観察会」

絶滅危惧種Ⅱ類に指定されているカワラノギクの観察会に参加しました。午前中に、光明学園相模原高等学校の先生や生徒さんから生態について説明を聞き、午後から相模川に隣接する六倉グランド奥のカワラノギク群生地を見学しました。ここは、「桂川・相模川流域協議会さがみ地域協議会」の方々が保全活動を進めている場所です。群生地に着くと、絶滅危惧種とは思えないほどの見事な群生をなしたカワラノギクの花畑が広がっていました。



光明学園相模原高等学校でのご説明



カワラノギクの花畑

## 2. 職場活動評価・表彰などの取り組み

相模原事業所の取り組みとして、毎年春に花壇やグリーンカーテン等、生物多様性の保全活動を職場ごとにエントリーしてもらい、この活動を評価し、12月に表彰をしています。

評価は、参加人数、活動期間、活動時間、活動頻度、活動・工夫内容等で点数をつけて行います。

2016年度は、13職場がエントリーし、東日本大震災後に奇跡的に芽を出した「ど根性ひまわり」の第六世を栽培した免制震部ブロックが最優秀賞に輝きました。

同じ種は、富士電線伊勢原工場でも栽培されました。



相模原



富士電線伊勢原

2017年度は、この子供たち(第七世)の他職場への展開や「相模原のカザグルマ(絶滅危惧IB類)を守る会」のご協力を得ながらカザグルマの定植等にも挑戦しています。



ど根性ひまわり(第七世)



絶滅危惧種カザグルマ



環境(CSR報告書 2017年版)

環境貢献製品

環境配慮型製品の中で、さらに環境に貢献できる製品として環境貢献製品を定義し、その拡大を目指しています。2016年度は、環境貢献製品の新規登録件数6件以上の目標に対して15件登録し、目標を達成しました。

下記に昭和電線グループで定義した環境貢献項目と2016年度に新規登録した環境貢献製品の一例を示します。

環境貢献項目

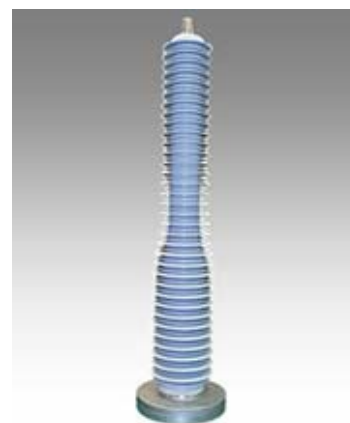
A	使用材料の環境負荷の低減	G	解体配慮設計
B	省資源	H	梱包・包装の合理化
C	省エネルギー[低炭素化]	I	廃棄処理容易性
D	長期間使用可能	J	その他の環境配慮設計
E	再利用可能	K	情報開示
F	リサイクル可能		

2016年度に新規登録した環境貢献製品例

■ 154kV CVケーブル用ダイレクトモールド気中終端接続部の実用化

エポキシブッシング表面にシリコーンゴムを直接モールドした固体絶縁の完全乾式気中終端接続部（ダイレクトモールド気中終端接続部）として、既に商品化している66kV、77kV、110kVクラスの製品に加え、今回新たに154kVクラスを実用化したことで、ラインナップを増強しました。

	従来品 磁器がい管	ダイレクト モールド	従来型比較
質量	520kg	140kg	約73%減
がい管長	2640mm	1860mm	約30%減
接続構造	ケーブル一体型	プラグイン構造	信頼性向上 部品点数の半減
絶縁方式	磁器がい管 + シリコーン油	シリコーンゴム + エポキシ樹脂	メンテナンスフリー



154kV CVケーブル用  
ダイレクトモールド  
気中終端接続部

環境への貢献

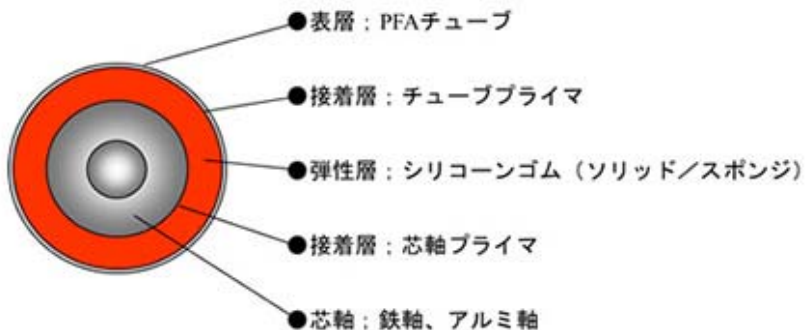
- 環境に優しいオイルレス乾式構造
- 機器筐体の縮小化により、システムの省エネに寄与
- リサイクルに適したアルミ材料を多用
- 機器筐体の縮小化による、材料省資源化
- 騒音・振動の低減

## ■ チューブローラ

チューブローラを使用するプリンター等は、環境に配慮した製品であることが求められており、使用する部品にも環境への配慮が求められます。

チューブローラに使用する材料に対しては材料環境アセスメントを実施し、最終チューブローラについても製品環境アセスメントを実施、環境に配慮された製品であることを確認しています。

特に、VOC（揮発性有機化合物）、UFP（超微小粒子）、RoHS指令については、材料選定の段階から配慮されたものを選択。開発段階においては分析を行い、問題ないことを確認しています。



環境(CSR報告書 2017年版)

環境会計

環境省が定めた「環境会計ガイドライン(2005年度版)」に準拠しています。

集計範囲:昭和電線グループの国内16社を対象としています。

対象期間:2016年4月1日~2017年3月31日

環境保全コスト

単位:百万円

	項目		昭和電線グループ		
	分類	内容	投資額	費用	
環境 保 全 コ ス ト	事業エリア内コスト		320	328	
	内 訳	公害防止コスト	環境施設、維持管理費等	21	14
		地球環境保全コスト	省エネ施設、維持管理費等	299	199
		資源循環コスト	廃棄物減量化および処理費等	0	115
	上・下流コスト	事業エリア前後における環境負荷抑制コスト等		0	0
	管理コスト	環境教育費用、環境マネジメントシステム維持管理費用等		0	36
	研究開発コスト	環境配慮型製品の開発費等		0	232
	社会活動コスト	自然保護、美化等の環境改善費、環境情報の公開費用等		0	2
	環境損傷コスト	土壌汚染調査費用等		0	0
	合計			320	598

項目	内容	グループ全体
2016年度設備投資額の総額	設備投資額	2,916
2016年度研究開発費の総額	研究開発費	927

● 環境保全コスト

エコ電線・ケーブルの材料費増加費用を上・下流コストに計上してきましたが、社内ガイド見直しに伴い2016年度より計上しないこととしました。

## 環境保全効果

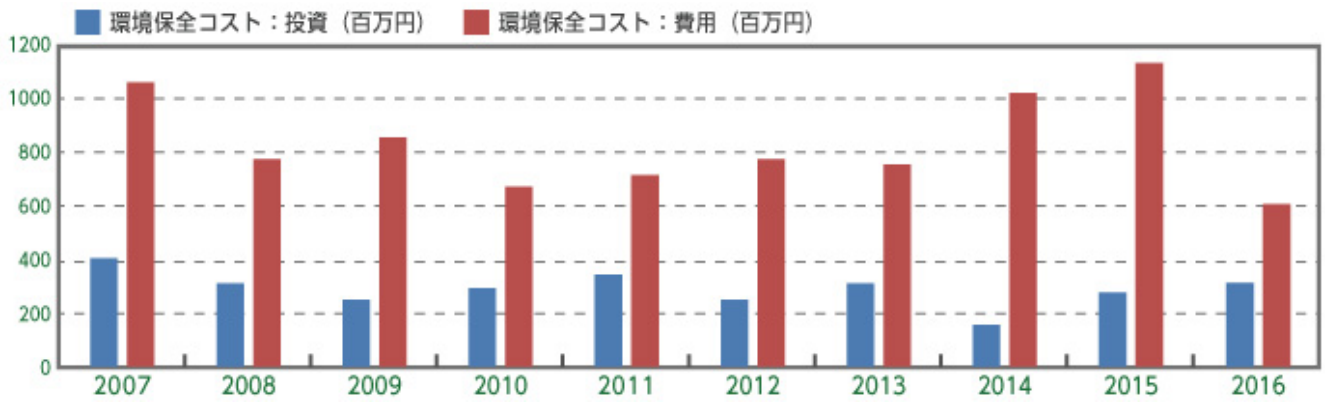
効果内容		昭和電線グループ
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果		
総エネルギー	エネルギー量(百万MJ)	99 減少 ( '15年度1,331→1,232)
	CO2排出量(千t-CO2)	6 減少 ( '15年度73→67)
資源投入量	銅量(千t)	2 減少 ( '15年度135→133)
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果		
大気への排出	PRTR物質の排出量(t)	2.2 減少 ( '15年度18.2→16.0)
廃棄物の排出	総発生量(千t)	4.8 減少 ( '15年度10.9→6.1)
	最終処分量(t)	163 増加 ( '15年度48→211)
総排出量における循環的利用	再資源化率(%)	3.0 減少 ( '15年度97.4→94.4)
輸送その他に関する環境保全		
輸送に伴う環境負荷	二酸化炭素排出量(t-CO2)	46減少 ( '15年度2,678→2,632)

## 環境保全に伴う経済効果

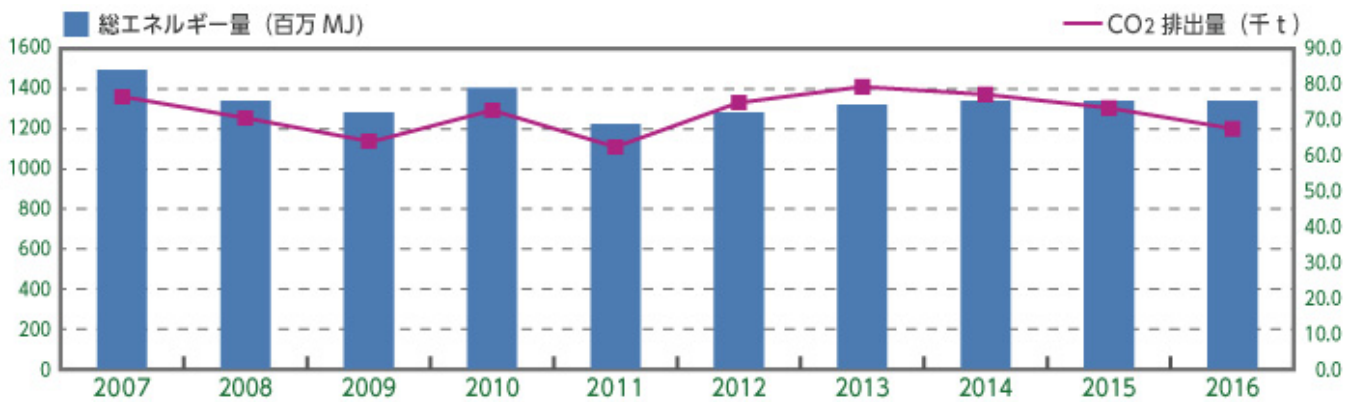
単位：百万円

効果内容	金額
	昭和電線グループ
省エネルギーによる費用削減	42
金属屑等の再資源化による効果金額	82
プラスチック屑等の再資源化による効果金額	3
合計	127

## 環境保全コストの推移

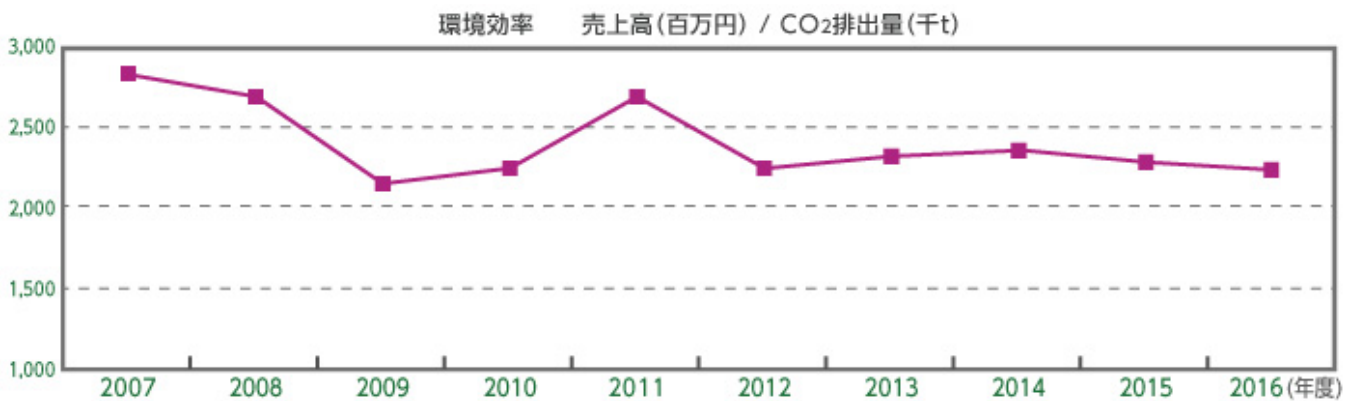


## 総エネルギーとCO2排出量の推移



## 環境効率(売上/CO2)の推移

2016年度の環境効率は、わずかに低下しました。



※電力・燃料を二酸化炭素量に換算しています。

## 公正な事業慣行(CSR報告書 2017年版)

### 調達先・取引先に対する取り組み

グループ調達方針として「安定的・継続的な最適調達を目指し他事業パートナーの皆様との戦略的関係の構築」を掲げています。

#### ■ 昭和電線グループ調達方針

1. 法令と社会規範を遵守し、公平且つ公正な取引を行います。
2. お取引先との相互信頼を第一に考え、お互いがベストパートナーとなり得る関係を構築します。
3. 安定した品質と納期、継続的なコスト低減努力、弛まぬ技術開発力を高く評価します。
4. 地球環境に配慮した資材の調達を進めます。

昭和電線グループは、また「かけがえのない地球環境を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは現存する人間の基本的責務」との認識に立って、資材調達活動においてもその必要性を十分に考慮した購入を心掛け、環境に与える負荷ができるだけ小さい製品の優先的購入を推進しています。

更に、社会的責任を自覚し事業活動を通じてより良い社会・環境作りに貢献して参りたいと考えています。そのため、製品・サービスを直接又は間接的に提供いただくお取引先様に、昭和電線グループが取り組んでいる以下の9つの行動規範に基づいたCSR活動について、その内容のご理解と積極的な推進をお願いしていきます。

また、お取引先様の製品・サービス等の調達取引先についても、お取引先様を通じて本項目の取り組み要請をお願いしていきます。

#### ■ 昭和電線グループの行動規範

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1. 良質・安全なものづくり      | 6. 企業情報の適時適切な開示・管理 |
| 2. 法令・規則の遵守         | 7. 環境保全            |
| 3. 人権尊重、個人の人格、個性の尊重 | 8. 反社会的勢力への対応      |
| 4. 公正な取引            | 9. 国際社会への対応        |
| 5. 政治・行政・地域社会との関わり  |                    |

### 内部通報制度

当社グループにおける会社業務遂行上の違反行為が万が一発生した場合、これを早期に発見し、通報者を保護しつつ迅速な調査によって是正および再発防止の措置を行うため、2008年に「昭和電線グループ内部通報制度運営規程」を制定し、内部通報制度「コンプライアンス・ホットライン」を発足させました。

本制度は、グループの窓口を昭和電線ホールディングス(株)内に設置するほか、心理的抵抗を和らげ通報を容易にすべく、会社から独立した外部の通報窓口もあわせて設け、当社顧問弁護士が直接通報を受け付けることとなっています。

また、内部通報者の保護については、上記規程で不利益取扱いを行った従業員等がいた場合は懲戒処分を課すことを定めることでこれを担保しています。



## 消費者課題(CSR報告書 2017年版)

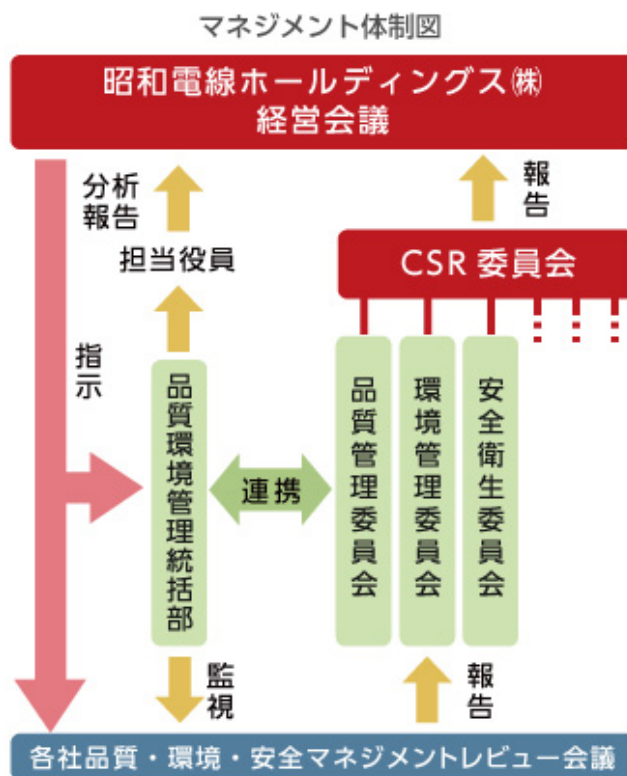
### お客様満足度の向上への取り組み

昭和電線グループは、優れた技術と高い品質の製品・サービスを通じてお客様との「信頼」を深めることを経営理念としています。そのために昭和電線ホールディングス(株)の経営会議にて、毎月お客様のクレーム・苦情等に関する品質情報をモニターし、お客様満足度の向上のために品質改善活動を継続的に実施しています。

### 品質マネジメントシステム

#### 品質マネジメント体制

昭和電線ホールディングス(株)のCSR担当取締役を議長とするCSR委員会の下部組織である品質管理委員会と、品質環境管理統括部を中心とした品質マネジメント体制を構築しています。



#### 品質マネジメント活動

品質管理委員会は、グループ全体の品質を有効かつ効率的に向上させるため、定期的に品質マネジメント活動をレビューしています。

一方、品質環境管理統括部は、お客様からのクレームに関する情報を常時収集・分析してグループ各社で共有しながら水平展開を計るとともに、グループ全社的な改善取り組みを推進し、品質担当役員を通じて経営会議に品質状況を報告しています。

経営会議にはグループ各社のトップマネジメントが出席し、各社は経営会議における指示事項を反映して直ちに改善に取り組み、その活動結果が経営会議にフィードバックされる改善サイクルを回しています。この改善サイクルにより、迅速なお客様対応と持続的な改善を実現しています。

## ■ ISO9001の認証

グループ各社は、品質マネジメントシステムの土台となるISO9001の認証を取得し、お客様を第一とする活動に取り組んでいます。

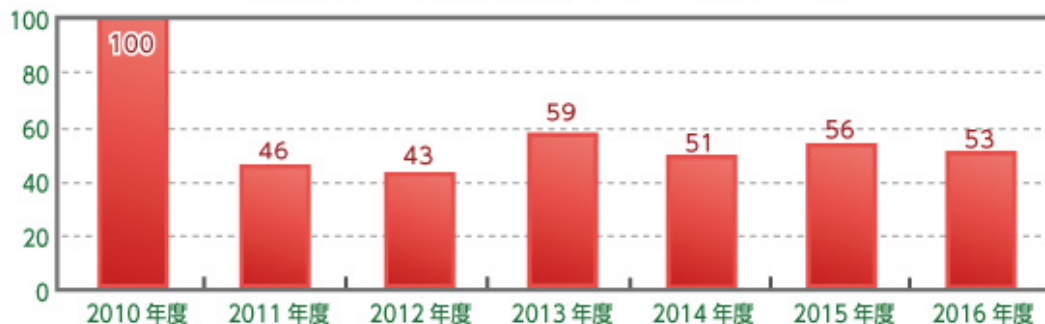
ISO9001 2015年改定の対応はグループ各社で進めており、4社でISO9001 2015年改定移行認定を取得しています。残りの社については2017年度、2018年度の認証取得に向けて取り組み中です。

グループ会社名		取得年月
国内	昭和電線ケーブルシステム(株) ((株)ユニマック、(株)ロジス・ワークスを含む)	2003.05
	富士電線(株)	1997.06
	(株)ダイジ	1995.11
	(株)SDS	2005.09
	(株)アクシオ	2004.02
	青森昭和電線(株)	2011.06
	多摩川電線(株)	2015.12
海外	SWCC SHOWA(VIETNAM)CO.,LTD.(SVC)	2008.03
	嘉興昭和機電有限公司(JSIP)	2002.12
	天津昭和漆包線有限公司(TSW)	1999.12
	東莞昭和機電有限公司(DSIP)	2009.10
	特変電工昭和(山東)電纜附件有限公司(STCA)	2010.12
	福清昭和精密電子有限公司(SSD)	2007.06
	富通昭和線纜(杭州)有限公司(FSH)	2013.04

## お客様クレーム件数の削減の取り組み

昭和電線グループ各社のお客様クレームは2010年度との比較では2016年度は件数、損金とも減少しており、ここ数年は微減傾向です。更なるお客様クレーム撲滅を目指して、品質改善活動に取り組んでいます。

お客様クレーム件数の推移 (2010年度 = 100)



## グループ各社の品質向上

品質については会社ごとに品質管理統括部門を設け、所轄する製品およびサービスの品質を保証しています。グループ各社の品質レベル向上を図るため、品質管理委員会を定期的に開催して全社的な改善取り組みを推進し、お客様目線での議論を通じて品質向上施策の水平展開や、問題解決支援を行っています。

グループ共通の品質目標としてクレーム撲滅を盛りこみ、重大な品質問題が発生した場合は緊急監査を行う体制を取っています。また、改善活動を通して、工程内の不良損金の削減にも取り組んでいます。

グループ各社とも設計、開発時のデザインレビューをもれなく行い、品質をつくり込む仕組みを重点的に展開しています。

## 昭和改善活動成果発表会

グループ各社の品質改善や生産性向上の活動を支援し、従業員の意識高揚や活動のレベルアップを図るため、海外および国内の拠点から選抜されたSPSチームや改善プロジェクトによる活動事例発表会を、年2回、定期的に開催しています。

2016年度の昭和電線改善活動成果発表会は、上期は海外拠点から3チーム、国内拠点から9チーム、下期も海外3チーム、国内9チームが国内外20社336チームの中から、国内外地区予選会を経て全社発表会へ選抜され、盛大に開催されました。



## 製品安全性(PL)

昭和電線グループは、お客様に安全な商品を提供するための製品安全基本方針に従い、製品の企画、設計、製造から販売、サービス、廃棄に至るまでの製品ライフサイクルを通じて安全に使用できることを目的として、開発、設計時に十分なレビューを行うとともに、設計上、製品上、表示上の観点から十分に配慮することにより、事故、トラブル等の未然防止に万全を期しています。

## コミュニティへの参画およびコミュニティの発展(CSR報告書 2017年版)

## 地域コミュニケーション

昭和電線グループでは、行動規範「地域社会とのコミュニケーションの重要性を認識し、積極的に交流を図る」に基づき、グループ各社の事業所・工場において地域社会と交流しています。

## 三重県キッズISO14000プログラムへの参加(三重事業所)

三重県が推進する地球温暖化対策の取り組みのひとつとして「キッズISO14000プログラム」があります。このプログラムは、県教育機関と地域に根付いた企業が連携し、地球温暖化防止をテーマに環境保全活動の一環として近隣小学校で環境学習を実施するというものです。

活動内容としては、企業から小学校への「出前授業」と、授業を受けた小学生のご家庭での省エネ活動「さくせん」とそのふりかえりから成っており、一連の活動を通じてPDCAサイクルを体感し理解してもらう流れとなっています。

三重事業所がこの取り組みに参加して10年目となった2016年度は、当事業所と同じいなべ市北勢町にある十社（とやしろ）小学校の5年生の皆さんに出前授業を行いました。

授業では、

「地球温暖化とはどういったことなのか」

「なぜ地球は温暖化しているのか」

「地球温暖化を防ぐためにわたしたちに何ができるのか」

を自前の資料で説明し、生徒さんにご家庭での省エネ活動「さくせん」を考えて展開してもらいました。

プログラムで準備されたワークブックに、「さくせん」の実行前（つまり現状）と実行後のデータを記入して、外部インストラクターからのコメントをもらい、全員にお返しすることができました。

自ら実行した省エネの結果に満足したり、残念がったり、途中のデータ記入を忘れてしまったり、ワークブックをなくしてしまったりと、生徒さんの反応や成果は様々でしたが、ワークブック返却の際には5年生11名全員の笑顔を見せていただきました。

2017年度も十社小学校の5年生の皆さんに出前授業に何う予定です。



十社小学校での出前授業



みなさんよくがんばりました



## 海老名里山づくり山仕事の会の取り組み(海老名工場)

2013年3月より、海老名市環境みどり課と海老名里山づくりボランティア「山仕事の会」の指導を受けて、海老名工場内にある緑地の整備を行っています。この緑地は一般の方々にも開放しており、遊歩道が整備され、所々にベンチが配置されています。ナラやクヌギの大木があり、これまで数回手を入れていただいたおかげで落ち着いた森となっています。山仕事の会が行う整備は、採光や風の動きを考慮した木の伐採、伐採した木が安全に土に帰るように区画を決めて木をまとめる作業、下草刈りなどになります。年1~2回整備を行います。2016年度は7月と11月に実施していただきました。下の写真は7月に実施していただいた時のものになりますが、山仕事の会から毎回15~20名ほどの会員の方々が参加されます。

この会の活動を通して子供たちの自然観察教室（カブトムシ、クワガタムシの採集）が開催されたり、近隣中学校の生徒さんたち216名が里山整備を体験されたりと、自然と親しむ場所を提供できるようになり、近隣の住民のみなさまとの交流も深まっています。



朝の集合



作業前確認



整備作業



## 第三者意見(CSR報告書 2017年版)

### 「昭和電線グループ CSR 報告書2017」に対する第三者意見

本CSR報告書は、企業の中長期的経営に注目されている「ESG（環境、社会、ガバナンス）」の内容を網羅しており、機関投資家を含めステークホルダーへよい情報を公開しているといえます。東証が2015年に発表した「コーポレートガバナンス・コード」で図っている企業価値の向上にも則しています。また、国連がイニシアティブをとり2016年から発効となった「SDGs（持続可能な開発のための目標）」に関して企業として関連する項目を取り上げており、「持続可能な開発」に関する国際的目標、及びわが国政府が「SDGs実施指針」で示す8つの優先課題と具体的施策の項目に対処していることがわかります。

SDGsは、「人間中心（people-centered）」、「誰一人取り残さない（no one will be left behind）」の考え方に基づいており、CSRの基本的な考え方を含んでいるといえます。貴社が当該活動を進めていく上で、17ある目標のどの項目に対応しているのか今後は具体的に記述していただくとさらにわかりやすい報告になると考えられます。他方、WBCSDなどで構成される「GHGプロトコルイニシアティブ」がLCM（Life Cycle Management）において提案しているスコープ3に基づくサプライチェーン管理や、グリーン調達基準の方針等の明示があると将来さらに重要となってくるLCA管理が厳格になっていくと思われれます。特に深刻になっている水消費削減、森林保護・生物多様性保護に関しても情報整備して頂きたいです。また、環境会計に関しては環境効率向上の検討に関連づけて記述されており、国際的に注目されている「グリーン経済向上」の取り組みとして高く評価できます。

ISO14001が2015年9月に改定され、本業業務を通じた環境保護・配慮が求められることからCSR活動を貴社の基本方針へ発展していくことが期待されます。



東海大学教養学部  
人間環境学科  
大学院人間環境学研究科  
教授

勝田 悟

### 2017年CSR報告書のご意見をいただいて

CSR報告書2017年版は、当社が「ESG（環境、社会、ガバナンス）」に対して、どのように取り組み、日々の活動を行っているかについて、ステークホルダーのみなさまに報告できる大切な手段と捉え、作成を行ってきました。内容は、基本的にISO26000に沿って構成されていますが、当社の組織統治や環境マネジメント体制にとどまらず、技術戦略などの中長期的戦略や、従業員の活動、コミュニティや環境に対する貢献など、当社の顔の見える情報公開ができるように編集の方針を変更しております。

当社のCSRの考え方は、SDGs（持続可能な開発のための目標）を念頭に活動を行っております。第三者意見でご指摘いただいたことに鑑み、内容において、LCA管理についての考え方、当社がSDGs 17項目のどこに重点を置いて活動を行っているか等については、今後のCSR活動及び報告書等において、ステークホルダーのみなさまにご理解いただけるよう、努めてまいります。

昭和電線ホールディングス(株)  
取締役  
長谷川 隆代

